

水と土の芸術祭 2015 実施計画(案)

WATER AND LAND—NIIGATA ART FESTIVAL 2015

平成27年6月

水と土の芸術祭 2015 実行委員会

問い合わせ先
水と土の文化推進課 TEL 226-2624

目次

I	開催趣旨	1
II	開催概要	2
III	事業内容	4
	1 市民プロジェクト	4
	2 こどもプロジェクト	11
	3 アートプロジェクト	13
	3-1 アート展示	13
	3-2 パフォーマンス	28
	4 シンポジウム	30
	5 食・おもてなし	33
	6 その他事業	36
	7 市内連携事業	36
	8 事業全体像	37
IV	建築と空間構成	38
V	交通関係・ツアー	42
VI	広報	45
VII	広域連携の取り組み	48
VIII	料金設定	48
IX	実施・運営体制	49
X	スケジュール	53
XI	予算	54

I 開催趣旨

新潟市は越後平野の中央、日本有数の大河、信濃川と阿賀野川の河口部に位置する古くからの湊町です。市域の大半は、ほとんど起伏のない平野が占め、かつて「地図にない湖」と呼ばれた「亀田郷」をはじめとする蒲原地域は、川の氾濫などにより広大な低湿地帯を作り出していました。そこには泥田に腰まで浸かる農作業があり、先人たちは不屈の精神と創造性を発揮することで生産を続けてきました。時代ごとに最先端の技術を投入し用排水を管理。昭和 23（1948）年、栗ノ木排水機場の運転開始および大排水機場が順次各地に整備されたことにより乾田化に成功、やがて日本一の米どころとして知られるようになりました。地平線まで見渡すような広大で美しい田園と湿地の名残でもある潟は、砂丘列とともに新潟市を象徴する原風景といえます。漁労や稲作など、自然の恵みを活かした食文化をはじめ、祭礼や年中行事などを通じ伝承してきた神楽や踊りなど、今も先人たちの営みから生まれた数々の宝物が地域で息づいています。

本芸術祭は水と土によって育まれた新潟市の成り立ちや歩み、暮らし文化など、その独自性に着目し読み解くことで、未来に続く無事な暮らしのために必要な価値観を見出していこうとするものです。あわせて新潟市民一人ひとりが郷土をよりよく知ること誇りと愛着を持ち、創造的な地域づくりを担える人材の育成を目指すものです。

3回目となる今回は、新潟市のアイデンティティである水と土の象徴「潟」に焦点を当てた取り組みとします。新潟市内には、現在16を超える潟が存在していますが、その中でも「鳥屋野潟」、「福島潟」、「佐潟」、「上堰潟」の4つの潟を芸術祭のメインフィールドとしてプロジェクトを展開していきます。かつて潟は、里山のように人々の生活と密接な関係で結ばれており、里潟と呼べる存在でした。潟に出向き、親しみ、潟そのものを体感することで、先人からつながる生命の連鎖に思いを馳せたいと思います。

加えて今年、本市が文化庁による「東アジア文化都市」の国内開催都市に選ばれたことを踏まえ、コア期間におけるメイン事業として、日本、中国、韓国など東アジア域内の文化交流にも積極的に取り組んで参ります。

世界のどこにもない、新潟市だけが持つ歴史と文化、そして自然。本芸術祭は、その魅力をアーティストや地域住民など多様な担い手とともに多彩なアプローチで引き出していきます。

II 開催概要

1 名称

水と土の芸術祭 2015

2 基本理念

私たちはどこから来て、どこへ行くのか

～ 新潟の水と土から、過去と現在を見つめ、未来を考える ～

3 目的

「水と土の文化創造都市にいがた」の前進

2015年は、北陸新幹線の延伸開業や農業特区での具体的な事業化の推進、日本・中国・韓国から1つずつ選ばれる「東アジア文化都市」の開催都市に選定され、多彩な文化イベントを通じた相互理解と連帯感を形成し、国際発信力を向上させる役割を担うなど、新潟市の発展にとって大きな意味を持つ、特別な年となる。

そのような中で、文化芸術が有する創造性を活かした新たな市民力の進展と、「潟」や「食」、「おどり文化」など「新潟らしさ」の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、魅力にあふれた、活気あるまちづくりを進める。

4 主催

水と土の芸術祭 2015 実行委員会

- | | |
|-------------------|--|
| □実行委員長 | 篠田 昭 (新潟市長) |
| □副実行委員長 | 本間 智美 (市民サポーターズ会議代表) |
| □副実行委員長 | 福田 勝之 (新潟商工会議所会頭) |
| □副実行委員長 | 萬歳 章 (新潟県農業協同組合中央会会長) |
| □監事 | 今井 幹文 (新潟経済同友会代表幹事) |
| □監事 | 平塚 幸雄 (中小企業診断士) |
| □参与 | 大熊 孝 (新潟大学名誉教授/新潟市潟環境研究所所長/NPO 法人新潟水辺の会代表) |
| □アドバイザー | 加藤 種男 (公益財団法人企業メセナ協議会専務理事・代表理事) |
| □総合ディレクター | 小川 弘幸 (イベントプロデューサー/文化現場代表) |
| □アート・ディレクター | 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座教授) |
| □建築ディレクター | 曾我部 昌史
(建築家・神奈川大学工学部建築学科教授/みかんぐみ共同主宰) |
| □パフォーマンス・ディレクター | 金森 穰
(りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督/Noism芸術監督) |
| □こどもプロジェクト・ディレクター | 戸潤 幸夫 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科教授) |
| □シンポジウム・ディレクター | 大熊 孝 参与兼務 |
| □食おもてなしディレクター | 伊勢 みずほ (フリーアナウンサー) |
| □広報ディレクター | 須田 和博 (株式会社博報堂 シニア・クリエイティブ・ディレクター) |

5 共催・後援・助成

共催：「東アジア文化都市2015新潟市」実行委員会

後援：総務省、経済産業省、関東地方環境事務所、駐新潟大韓民国領事館外務省、在新潟ロシア連邦総領事館、中華人民共和国駐新潟総領事館

助成：平成27年度文化庁文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業、一般財団法人地域創造、私的録音補償金管理協会 (sarah)

6 会 期

2015 年（平成 27 年）7 月 18 日（土）～ 10 月 12 日（月・祝） 87 日間

7 会 場

4 つの潟及び市内全域

メインフィールド：鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟

ベースキャンプ：旧二葉中学校

開館時間 午前 10 時～午後 6 時

休館日 毎週水曜日（8 月 12 日（水）、9 月 23 日（水）を除く）

サ テ ラ イ ト：天寿園、いくとぴあ食花

（天寿園）

開園時間 午前 9 時～午後 5 時

休館日 毎月第 2・4 月曜日（祝日の場合は翌日）

（いくとぴあ食花）

営業時間 午前 9 時～午後 5 時

会期中休館日 9 月 8 日（火）

8 主要事業

- （1）市民プロジェクト（市民が企画立案し、実行委員会が支援するもの）
- （2）こどもプロジェクト（大学や教育関係者と連携し、企画・運営するもの）
- （3）アートプロジェクト（実行委員会が作家・作品を、公募・招へいするもの）
- （4）シンポジウム

9 予 算

270,000 千円

Ⅲ 事業内容

1 市民プロジェクト

市民自らが企画・運営するもので、イベントのみならず、まちづくりや地域活性化に繋がるプロジェクトを支援する。これにより、市民や地域が主体となって関わることができる、参加性の高い芸術祭とする。

(1) 募集スケジュール

日 程	内 容
2014年11月18日(火)	募集開始
2015年1月16日(金)	応募締切
1月19日(月)～ 2月13日(金)	審査
2月25日(水)	採択通知発送

(2) 対象事業（下記のア～エのいずれにも該当するもの）

ア 2015年7月18日(土)～2015年10月12日(月・祝)に、新潟市内で開催し、地域住民が参画するイベント等で、下記の(ア)から(オ)のいずれかに該当するもの。ただし、この期間より前に実施するもので、特に芸術祭開催の機運醸成等に繋がると認められる場合は、この限りではない。

(ア)「水と土」の歴史・文化などを紹介し、「水と土の新潟市」の文化振興に資するもの

(イ)「水と土」に関わるアートを活用して地域の賑わいを創出するもの

(ウ)新潟らしさを表す「潟」、「食」、「おどり」等の魅力を発信するもの

(エ)中国・韓国をはじめとする東アジアの文化交流に資するもの

(オ)東日本大震災による被災者・避難者等を支援するもの（新潟市外で行うものも可）

イ 2015年2月末頃の採択決定を受け、2015年4月1日までに開催日時、場所、内容を確定できるものであること。

ウ 不特定多数の集客、参加が見込まれるもので、非営利であること。

（特定の住民の方のみが参加するもの、または販売等の収益事業を主目的としたものは不可）

エ 政治、宗教などに関する活動や、公の秩序または善良の風俗に反するものでないこと。

(3) 応募件数

132件

(4) 採択件数

120件

(5) 実施件数

109件

(6) 助成額

事業にかかる助成対象経費の10分の10で、1事業につき上限50万円

※過去に水と土の芸術祭におけるアートプロジェクトに参加した作家を招へいし、実施する事業については、上限を超えて助成する必要があるため、応相談とする。

(7) 対象地域

市内全域（東日本大震災に対する支援を行うものについては、この限りではない）

(8) 実施主体

市民グループ、地域、団体、学校、事業所・企業 など

(9) 採択方法

一般公募により募集し、実行委員会で採択する。

(10) 採択要件

- ア 芸術祭の趣旨を理解し、独創性のある魅力的なイベント等であるもの
- イ 事業主体は市民グループ、地域、団体、事業所・企業等で、自主的に企画立案され実施するもの
- ウ 芸術祭に関する情報発信や、地域の魅力の再発見、再構築、そしてその発信に寄与するもの

(11) 助成対象経費等

事業に直接要するもので、必要最低限の経費を対象とする。ただし次の経費を除く。

- ア 事務所等を維持管理するための経費
- イ 食糧費（健康管理上、必要なものなど実行委員会が認めるものは除く）
- ウ 実施団体の構成員に対する謝礼等の人件費
- エ 単価3万円を超える物品（当該物品がないと事業を実施できない場合は応相談）
- オ その他、事業に直接関係ないと実行委員会が認める経費

(12) 実施プロジェクト一覧

NO	区	開催（予定）	会場（予定地）	事業名	主催者
001	北	4/25、6/27、 8/29	水の駅「ビュー福島 潟」	潟の音風景－癒しの空間・福島潟 夕方コンサート	日比野音療研究所
002	北	7/20	福島潟放水路	福島潟 潟舟レガッタ	ねっとわーく福島潟
003	北	9/19、9/20	北区文化会館	市民演劇公演「潟端の月」	演劇くらぶ「葛の葉」
004	北	9/23	水の公園福島潟	潟 総おどり ー福島潟の未来 ー	福島潟みらい連合
005	北	9/23	水の公園福島潟	雁迎灯	福島潟自然文化祭実行委 員会
006	北	9/26	葛塚小学校	水と土がつなぐ未来、そして新 潟。世界が奏でる水と土の演奏会	北区フィルハーモニー管 弦楽団
007	東	7/25、9/25 ～27	通船川、新潟市美術館	通船川クルーズで「まち」を聞 く、撮る、つくる	「通船川クルーズ」プロ ジェクト
008	東	7/31～10/4	旧江東車体内アート スペース	「水と土と情熱と」しげやんとお どるコミュニティダンスの旅	B r e a t h i n g A r t
009	東	9/19、9/20	旧江東車体	Green Factory	B r e a t h i n g A r t

NO	区	開催（予定）	会場（予定地）	事業名	主催者
010	中央	4/1～10/12	中央区・西区各地	うちの de チンドン	うちの de チンドン
011	中央	5/9～10/12	こども創造センター、 ビュー福島潟ほか	ちぎってつくれば、だれでもゲージツ家～ 100人でデッカイ壁画つくるぞ	ジョイフェス
012	中央	5/16、5/17	早川堀通り	早川堀みずつつち PR プロジェクト	早川堀みずつつち PR プロジェクト
013	中央	7/10、7/19、 7/20	木揚場教会ほか	『ちんでん街』プロジェクト	舞踏団トンド空静
014	中央	7/12、10/9	こども創造センター、 能楽堂ほか	天のめぐみ 地の祈り	わいわい夢工房
015	中央	7/17～9/13	日比野克彦さんのボ ートハウス	手部のガタガタ移動部活プロジ ェクト 2015	手部
016	中央	7/18～7/22	NEXT21 ビル 1 F	新潟漆器と市民の交流広場 2015	新潟市漆器同業組合
017	中央	7/18～8/31	鳥屋野潟周辺店舗	鳥屋野潟“水土コラボ食”巡り	STUDIO U・STYLE
018	中央	7/18～8/31	STUDIO U・STYLE	「水と土の芸術祭」を着こなす、鳥 屋野潟まわり市民プロジェクト	新潟市南商工振興会
019	中央	7/18、8/22、 ～9/27	天寿園ほか	にいがた「田んぼとマチのある風 景」学ぶ、感じる、今を遺す	「田んぼとマチ」を感じ てつくる、プロジェクト
020	中央	7/18～ 10/10	新潟駅西側連絡通路	ホームタウン・オレンジプロジェク ト～みんなで作る新潟が誇る風景～	特定非営利活動法人アラ イアンス 2002
021	中央	7/18～ 10/11	新潟大学旭町学術資 料展示館	砂丘展	新潟大学旭町学術資料展 示館
022	中央	7/18～ 10/11	沼垂テラス商店街と その界限	ニュー沼垂ラジオ	なじらね沼垂
023	中央	7/18～ 10/12	新潟市清五郎周辺	「清五郎八人衆」を未来に語り継ぐ ～ふるさと新潟市を開拓した人々～	清五郎倶楽部
024	中央	7/18～ 10/12	B e f c o ばかうけ 展望室	地上 125mからズームアップ！スマ ホで探索する水と土の芸術祭	にいがた文化交流NET
025	中央	7/18～ 10/12	旧礎保育園	礎窯 2015 ONE MORE CUP STORY	礎窯サポーターズ
026	中央	7/18～ 10/12	ベースキャンプ	市鳥「白鳥」立体造形展	新潟鳥風の会
027	中央	7/25	ベースキャンプ	みずつつちオーケストラ！	みずつつちオーケストラ
028	中央	7/25	新潟駅南口広場	PONPON ナイト☆カーニバル	のんびーり青山の会 の んびーりサックス
029	中央	7/27～10/2	ベースキャンプ	新潟市の潟を鳥の眼で訪ねる旅	新潟映像製作ボランティア

NO	区	開催（予定）	会場（予定地）	事業名	主催者
030	中央	7/30（予定）	ホテル日航新潟	新潟美人寿司プロジェクト	新潟美人実行委員会
031	中央	8/1 雨天 の場合 8/2	人情横丁	一日だけ二番堀再生プロジェクト	本町中央商店街協同組合
032	中央	8/2、8/16、 8/23	こども創造センター	みずつちこどもファインダー学校	みずつちこどもファインダー学校
033	中央	8/8、8/9	水と土の芸術祭会場 ほか	にいがたりんかいがっこう 2015	同実行委員会
034	中央	8/23	新潟日報メディアシ ップほか	妖怪は文化だ。「河童の招待状」 妖怪パレード	新潟妖怪研究所
035	中央	8/23～ 10/12	クロスパル映像ホー ル	新潟風景ほか堀と川、農村風景の思 いでフィルム写真収集と上映展示会	にいがた映像ギャラリー
036	中央	8/31、9/23、 9/24	万代市民会館ほか	潟ファンタジーIN 新潟&福島一 音楽で心をつなぐ	Boku 国際交流音楽倶楽部
037	中央	9/12	新潟大学 駅南キャ ンパス「ときめいと」	映画「阿賀に生きる」を観ながら、 これからの話をしよう。	あがこれ実行委員会
038	中央	9/19～9/27	食育・花育センター	稲穂で表現・にいがたアグリクラ フト	にいがたアグリクラフト
039	中央	9/19～10/4	NEXT21 アトリウム（1 階）	「新潟町 500 年 水と土の歴史 展」	新潟中心商店街協同組合
040	中央	9/20	中央区各地	みずつちチェックイン	株式会社けんとう放送
041	中央	9/23（予 定）	新潟県スポーツ公園 及び鳥屋野潟周辺	とやの物語 2015	とやの物語実行委員会
042	中央	9/26～9/27	エコスタ脇の田んぼ	わらぼっちパフォーマンスプロ ジェクト	わらぼっちパフォーマンス プロジェクト
043	中央	9/27 ほか	西大畑公園周辺	西大畑 まち散策＋野点プロジ ェクト	ヒッコリースリートラベ ラーズ
044	中央	10/3 ほか	ベースキャンプほか	新潟市 8 区ムービー2015	にいがた映画塾
045	中央	10/3 ほか	ベースキャンプほか	つながる世界☆短編映画制作プ ロジェクト	Deep inside neo vision
046	中央	10/10、 10/11	葵高等学園 新潟校	「潟」の短編映画製作	葵学園
047	中央	10/11	駅南キャンパス と きめいと	潟の朗読会Ⅱ	さがなの会
048	江南	6/7	小阿賀野川、北方文化 博物館	水郷の里 「嫁入船」復活プロジ ェクト	横越コミュニティ協議会
049	江南	7/18	江南区文化会館	演劇「2015 年のゴールデンタイム～ ステキナハナヲサカセマ・ショー～」	同公演実行委員会
050	江南	7/18～10/4 （予定）	北方文化博物館	呼び覚ます土の記憶 ～古代ハ スと豪農の歴史～	北方文化博物館

N0	区	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
051	江南	7/18～ 10/12	杜の蔵	旧米蔵を活用したアート展示及び製作体験と食の交流	杜の蔵で食とアートにふれる会
052	江南	7/18～ 10/12	えんではよこごし	よこごし旬物語～えんではよこごし Ver. ～	特定非営利活動法人 えんでくる
053	江南	7/19、8/23、 9/6、10/11	えんではよこごしと 周辺	よこごし田園風景 歴史学びプロジェクト	特定非営利活動法人 えんでくる
054	江南	7/26～8/25	J R 亀田駅前周辺	わく灯籠で夕涼み	亀田商工会議所青年部
055	江南	8/9	酒屋町民の家	地域活動支援センタースワンと酒屋町の人達の劇「一杯の水」	劇団 スワンの木
056	江南	9/20、9/21	北方文化博物館	でんでん祭り～田んぼで生まれた文化を後世に伝えるプロジェクト～	北方文化博物館
057	江南	9/26	江南区文化会館	市民参加の演劇 「江戸時代に亀田町誕生」	劇団 BOBLEED
058	秋葉	7/18～ 10/12	石油の里世界館	『あがのりゅう&しなのりゅう』 2015	ほん木館
059	秋葉	7/18～ 10/12	町屋ギャラリー薩摩屋ほか	小須戸 ART プロジェクト 2015	小須戸小学校区コミュニティ協議会
060	秋葉	7/26、8/1、 8/2	七色の池周辺(秋葉区秋葉1丁目)	「七色の池」伝説を訪ねる	秋葉七色の会
061	秋葉	7/30、8/6、 8/27	秋葉区文化会館	伝承文化を稲わらや稲穂を使って表現	稲穂アレンジの会
062	秋葉	8/1～10/3	小須戸織工場跡ほか	小須戸織の記憶をつなぐプロジェクト	小須戸小学校区コミュニティ協議会
063	秋葉	8/16	新津本町中央公園	大囃祭	大囃祭実行委員会
064	南	7/18～ 10/12	笹川邸ほか	味方アートプロジェクト	味方アートプロジェクト実行委員会
065	南	7/18～ 10/12	旧「つかせ」ほか	白井アートプロジェクト	白井コミュニティ協議会
066	南	7/18～ 10/12	白根商店街内空き店舗	白根アートプロジェクト	白根青年会議所
067	南	8/26、9/12	白根神社付近ほか	白根・共に・灯火プロジェクト	白根青年会議所
068	南	9/6～10/4	しろね大凧と歴史の館ほか	しろね大凧ワークショップ	しろね大凧ワークショップ実行委員会
069	南	10/4	笹川邸	月潟角兵衛囃子と横笛	月潟竹籟の会
070	西	6/24～8/1	清徳寺ほか	「盆踊りサミット in うちの&内野大盆踊り大会」 内野で語ろう!踊ろう!!新潟市域の盆踊り談議と実演、	内野地域の盆踊りを楽しむ会
071	西	7/25～9/17	内野新川周辺	新川開削の生い立ちを学び、見学、交流する事業	越後新川まちおこしの会

NO	区	開催(予定)	会場(予定地)	事業名	主催者
072	西	8/8~8/15	西川水路橋から新川 の大萩橋の間	2015 内野 新川ほたる	夢アート うちの
073	西	8/15~9/23	木場集落内	この地から 木場・亀倉プロジェ クト	木場の郷土を愛する会
074	西	8/23	黒埼市民会館	新潟・福島 DANCE COLLABORATION ~TSUNAGU~	S P Cスタイリッシュラテ ン・パフォーマンスクラブ
075	西	9/1~9/17	坂井輪地区公民館	ふるさと坂井輪の昔といま~II 旧青山村、旧小針村、旧平島村	N P O坂井輪地域学
076	西	9/26~ 10/12	飯塚商店	「ごはんのチカラ、ニイガタの力」~ご飯 を中心とした「新潟食」で世代をつなぐ	うちのまち なじみのお みせ ものがたり
077	西	9/27	新潟みずほ福祉会敷 地内および周辺	みんなで踊り子ワークショップ	踊り子クラブ
078	西蒲	5/10~ 10/12	農産物直売所 [ニシカ ン]	三根山藩治水物語(米 100 俵のふ るさと史料館)	県営土地総合整備事業栄 新谷地区推進協議会
079	西蒲	7/18~7/31	中之口先人館、中之口 地区公民館	日韓芸術文化交流「ともだちとト モダチと友達展」	日韓芸術文化交流展実行 委員会
080	西蒲	8/1、9/5、 9/26	中吉川旧醤油蔵	中吉川レンガ造煙突のライトア ップ	中吉川A P
081	西蒲	8/14~ 10/12	矢垂川縁辺	矢垂川プロジェクトパート 2	福井自治会
082	西蒲	8/22、10/11	新潟市万代市民会館、 上堰潟公園	水土キャンドルナイトプロジェ クト「燭光の祈り」	燭光の祈り実行委員会
083	西蒲	8/23	巻地区公民館	巻菱湖を偲ぶ将棋大会	巻菱湖顕彰委員会
084	西蒲	9/11~ 10/12	潟東歴史民俗資料館、 潟東樋口記念美術館	関敦子ピアノリサイタルと在り し日の鎧潟を語る集い	西蒲区文化施設を運営す る市民の会
085	西蒲	10/3、10/4	越前浜 海の家 ば うわう	大地の響き、命のつながり「アフリカのお 祭り体験ワークショップ&ライブ」	アフリカ音楽文化交流会
086	その他	4月~9月	西蒲区越前浜周辺	休耕地から生まれるはちみつプ ロジェクト	休耕地から生まれるはち みつプロジェクト
087	その他	4/1~10/12	ベースキャンプほか	にいがたコレクションR P G	にいがたコレクションR P G実行委員会
088	その他	5月~10月 上旬	ベースキャンプ、県立 植物園ほか	明後日朝顔プロジェクト NIIGATA2015	同団体
089	その他	5/9~10/12	静浜亭ほか	第 3 回 かもめ企画-みずきわ だつ-エンゲキプロジェクト	かもめ企画 2015
090	その他	5/11~ 10/12	各地	LAGOON TRAVELING	同実行委員会
091	その他	6/28、9/27	旧庄屋佐藤家など	にいがた稲作ドキュメンタリー &シンポジウム『暮らしの骨格』	ブリコール
092	その他	7/4~10/12	みなとトンネル歩道 (海側)	Kid's の陶板アート	郷土の文化に親しむ会

NO	区	開催（予定）	会場（予定地）	事業名	主催者
093	その他	7/11～7/25	ニコンプラザ仙台	未来へつなぐ希望の光“鯛車”	鯛車復活プロジェクト
094	その他	7/18～ 10/12	亀田駅周辺ほか	アート亀田 2015「記憶・追想・夢 in 亀田～玉垣より～」	アート亀田 2015 実行委員会
095	その他	7/18～ 10/12	中心市街地及び新潟市全域	Niigata Good Contents 動画配信事業	新潟商工会議所
096	その他	7/18～ 10/12	ベースキャンプほか	新潟縣越後國 古町鯛車雪洞(ぼんぼり) で、人降る町へ	柳都わいやらの会
097	その他	7/25～ 10/10	ベースキャンプほか 新潟市内各所	文学で参加する水と土の芸術祭 2015	新潟ゆかりの文化を楽しむ会
098	その他	7/25～10/4	ベースキャンプほか	みずつち大学	水と土の芸術祭市民サポーターズ会議
099	その他	7/26、8/29、 ～9/27	赤塚～岩室ほか	にいがた北国街道～岩室温泉ものがたり	にいがた北国街道まちあるきの会
100	その他	7/31～9/12	こども創造センター、 新潟浄化センター	市民参加のこども演劇 「ふしぎなたいこ」	劇団あかつき
101	その他	8/1～10/12	ベースキャンプ、白根 商店街空き店舗	わたしのマチオモイ帖・新潟	同実行委員会
102	その他	8/3、9/19、 10/3	クロスパルにいがた ほか	燃える水、燃える土	石油の世界館友の会
103	その他	8/9	福島県南相馬市鹿島 区生涯学習センター	「みずつち合宿」のためのプレ企画	南相馬市子ども支援プログラム
104	その他	8/22	ビュー福島潟、メディア アシップほか	はばたけ 21「水と土の探検隊」	はばたけ 21 の会
105	その他	8/28～8/30 9/25～9/27	ベースキャンプほか	ウポポリムセ・アイヌに遊ぶ～宇梶静江さんとともに	ウポポリムセの会
106	その他	9/26	新潟県スポーツ公園 カナル広場	ファイヤーパフォーマンス～ element of the EARTH～	ファイヤーパフォーマンス～ element of the EARTH～
107	その他	9/27、9/28	新潟市内 5 会場	水都にいがた五感塾 2015	水都にいがた五感塾・世話人会
108	その他	10/3 ほか	砂丘館ほか	異界とのダイアローグ-里、潟に生きる	Niigata Navy Blue
109	その他	未定	各地	(仮称)「新潟水と土の記憶」ミニ冊子製作事業	杜の蔵で食とアートにふれる会

2 こどもプロジェクト

過去の芸術祭において、子どもたちの参加性が高く、大変好評であった「こどもプロジェクト」を新たな柱の一つとして実施する。

多くの子どもたちが参加するプログラムとして、本芸術祭の基本理念や地域の歴史・文化への理解を深め、芸術の面白さ、楽しさ、すばらしさも体感し満喫する場を提供する。

従来の生活、学校や課外活動等においては体験できないダイナミックな活動をめざし、子どもの個性と創造性、心豊かな人間性を育む。

(1) 実施体制

新潟市教育委員会、下越美術教育研究会、下越音楽教育研究会、新潟市小学校教育研究協議会等の推薦により、企画・実施を行うコーディネーターの教育職員を選任し、各プログラムの具体的な企画・実施を進める。

また、新潟大学や新潟県立大学、市民団体などからも協力してもらい、様々なプログラムを実施する。

(2) 実施概要

ア 実施会場

こども創造センターを拠点として活動し、様々なワークショップ等を行う。さらにワークショップで作った作品は、展示することで、多くの子どもや保護者から鑑賞してもらう。

また、作家等が小中学校へ出張するワークショップも行う。

イ ワークショップの充実

作家・舞踊家・音楽家・食の専門家・市民団体等によるワークショップを積極的に開催する。アートだけでなく「潟」、「食」、「おどり」といったワークショップを通して次世代を担う子どもたちの創造性を育むとともに、新潟の魅力を再発見してもらう。週末を中心に実施することで参加性を高め、市民に開かれた芸術祭を実現する。

種 別	講 師 等
【アートワークショップ】※	
アート作家による ワークショップ	荒井良二（絵本、音楽等）
	井川惺亮（インスタレーション）
	友政麻理子（映像作品）
	山口晃（絵画、インスタレーション）
	行武治美（インスタレーション）
大学によるワークショップ	佐藤哲夫（新潟大学教育学部芸術環境講座教授）
	戸潤幸夫（新潟県立大学人間生活学部こども学科教授）
アートの市民団体による ワークショップ	HaLo キャンドル（主にキャンドルを用いたアート活動団体）
	手部（水と土の芸術祭 2012 で生まれたアート活動団体）
潟の市民団体による ワークショップ	日本自然環境専門学校（鳥屋野潟担当）
	ヨシあし和紙の会（福島潟担当）
	佐潟村（佐潟担当）
	にいがたアグリクラフト（上堰潟担当）

種 別	講 師 等
【からだワークショップ】※	真下恵 (Noism バレエミストレス)
【音楽ワークショップ】※	Boku 国際交流音楽倶楽部 (アフリカン音楽による教育推進団体)
【潟食ワークショップ】	雪ひらの勉強会 (新潟県下の若手料理人の日本料理勉強会)
	Il Laboratorio Di Cucina Niigata (イル ラボラトリオ ディ クッチーナ ニイガタ) (新潟県内各地で活動しているシェフの研究所)
	佐藤 智香子 (料理教室「waioli kitchen」主宰、野菜ソムリエ)

※【アートワークショップ】【からだワークショップ】【音楽ワークショップ】は、小中学校へ出張してのワークショップも開催する。

ウ みずつち給食

地元食材や新潟の郷土料理をもとに、創造的にアレンジした料理をメニュー開発し、学校給食の2015年7月の参考献立として提供する。

[メニュー開発者：佐藤 智香子 (料理教室「waioli kitchen」主宰、野菜ソムリエ)]

	献立名 (子どもたちに伝えたい献立の由来・思い)	
メニュー 1	潟のめぐみ じゅんさいスープ	新潟特産 車麩と夏野菜の揚げ煮
	小さな浮き舟に乗り、竿一本で収穫する「じゅんさい」は水の綺麗なところでしか育たないもの。透明なゼリー状の粘膜で覆われているので、汁の実に入れるとつるんとした食感が楽しい、初夏の訪れを告げる一品。	新潟の特産品である車麩は、伝統的な新潟の食文化の一つ。カラフルな夏野菜と一緒に揚げて煮ることで、なじみの薄い乾物料理も食べやすく変化する。
メニュー 2	コーンとレタスのスープ	東アジア風 バンブーハウス炒め
	旬のトウモロコシを使ったスープは、少しだけトロミをつけて食べやすい様に仕上げている。コーンやレタスが、潟に浮かんでいるイメージの優しい味わいのスープ。	水と土の芸術祭のシンボリック作品「バンブーハウス」から、竹の子を使った料理。また「東アジア文化都市」に選ばれた事も考慮し、オイスターソースを使い、子供たちにも食べやすい味付けにしている。旬のきゅうりも入ったボリュームある一品。

エ みずつち合宿

東日本大震災の被災地の子どもたちを招待し、新潟の子どもたちと交流する機会とするもので、アート作品鑑賞やアーティストによるワークショップを通して創造性を育むだけでなく、「食育」「潟食」をテーマに、市内の食関係施設をめぐり、農業体験や潟での食を体験する夏休みツアー。

- 第1回 2015年8月6日(木)～8月8日(土) 2泊3日【石巻市】
- 第2回 2015年8月20日(木)～8月22日(土) 2泊3日【南相馬市】
- 被災地より各30名、新潟市内より各20名の合計各50名を募集予定

3 アートプロジェクト

深い地域性と高い芸術性を持ち、新潟の水と土の象徴である「潟」に光を当てながら、アートプロジェクトを実施する。アートプロジェクトは、制作から展示まで、市民や地域が様々に関わることができる参加性の高いものとし、また、多様な人が楽しめ、大きな集客力が期待できるものとする。造形物だけでなく、ダンスなどのパフォーマンス、ワークショップなども実施し、過去の芸術祭で設置した作品についても、活用を図るものとする。

<作家>

	アート	パフォーマンス	アート小計	その他 (関連、市民P)	計
作家数	38	3	41	15	56
うち県内作家	4	3	7	6	13
うち海外作家	7	0	7	1	8

<作品>

	アート	パフォーマンス	アート小計	その他 (関連、市民P)	計
作品数	44	8	52	17	69
うち新作	30	8	38	15	52
うち旧作	14	0	14	2	16

3-1 アート展示

(1) 作品選定

公募と招へいにより作家・作品を選定する。選定は、担当ディレクターが行う。

作家・作品の選定にあたっては、水と土の芸術祭 2015 の趣旨を理解したうえで、新潟市の歴史・文化・自然等を感じられたり、国内外から注目を集められたり、また、来場者が楽しんだり考えたりすることができる作品で、制作等のプロセスにおいて参加性の高いものを優先的に選定するものとする。

会期前に完成する作品だけではなく、会期中に進行するプロジェクト等、そのプロセスに市民や来場者が参加できる作品も検討する。また、地元作家の参加を促すため、市内美術団体やギャラリー、大学・専門学校等に対し、作品公募の周知を徹底する。

(2) 制作

制作にあたっては市民や地域、学校、企業、事業所、団体等との協働で取り組む。

(3) 新規の作品について

ア メインフィールド アート

- 一つの潟を、その景観をそのままに、一つの巨大作品に昇華させる（潟そのもの=作品）。
- 潟の自然環境に配慮した中で、アート要素を広くクリエイティブに埋め込み、潟全体を作品転換。

- 潟へ視点や意識を向けさせる仕掛けとして機能するアートとする。
- 市民の参加によってメッセージの共有を促進。
- 設置予定箇所は鳥屋野潟・福島潟・佐潟・上堰潟とする。

イ ベースキャンプ アート

- ベースキャンプに置かれるアート作品。
- 旧二葉中学校の教室等屋内あるいは一部屋外に置かれるアート作品。
- 潟やその周辺地域などと内容的なつながりを持ち、メッセージを伝えるアート作品。
- 潟ができる原因となった砂丘の上に立つ会場で、潟を意識させ、潟へと誘うアート作品。

ウ シンボル アート

- 万代島緑地に、シンボリックな巨大オブジェを設置。
- 夜間のライトアップも行えるものとする。

エ 公募作品

公募により 5 作品を選定した。


日 程	内 容
2014 年 10 月 8 日 (水)	募集開始
2015 年 1 月 15 日 (木)	応募締切
1 月 16 日 (金)	一次審査
1 月 29 日 (木)	二次審査
2 月 1 日 (日)	結果通知発送


(4) 過去作品の再展示


- ア 再展示作品 (第 1 回芸術祭で制作され、保管管理している作品) < 6 作品 >
再展示を行い、その活用を図る。
- イ 継続展示作品 (第 1 回芸術祭で制作され、現在も展示されている屋外作品) < 8 作品 >
補修やメンテナンスを行い展示する。

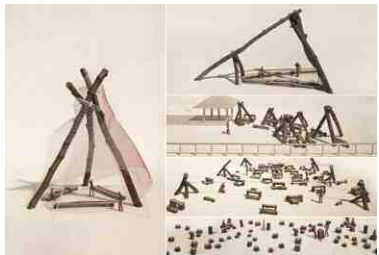
(5) 作家・作品一覧 (予定)

まちなか／ベースキャンプ周辺


街1	まちなか／ベースキャンプ周辺 (NEXT21 アトリウム)	
作家名	肖 潇 (シャオ・シャオ XIAO Xiao) ※中国	イメージ 
作品名	An Object from the Mountain	
内 容	見たところ山 (土) から海 (水) へ流れるその丸太は、まちなかに突如現れる。それはインフォメーションベースとして機能し、人の目にとまり、多くの人が集まる場となる。人々は丸太の中に入り、潟、山そして芸術祭について様々に語り合う。	


街2	まちなか／ベースキャンプ周辺 (万代島緑地)	
作家名	王 文志 (ワン・ウェンヂー) ※台湾	イメージ 
作品名	新潟織夢-Dream of Niigata-	
内 容	竹と牡蠣殻による巨大なアート。竹で編み上げた貝殻と隙間から差し込む光と影によってその美しい姿が河辺に現れる。回廊を通った内部は橋、広場など高低差が楽しいゆったりとした情景。再生の象徴である牡蠣殻を使うことで、前回の作品から継続して被災地と関係を創り復興を祈念する。	

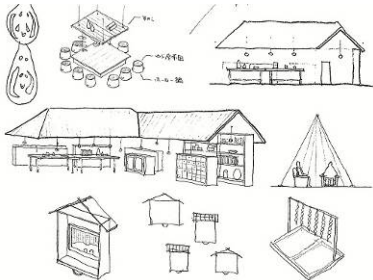
街3	まちなか／ベースキャンプ周辺 (信濃川やすらぎ堤)	※継続展示
作家名	ジャウマ・プレンサ ※スペイン	
作品名	THE HEART OF TREES	
内 容	信濃川に向かう、樹木を抱えて座る2人の人物像。時間が経つ中で、樹は育ち像と一体化していっくだろう。水に向かい、過去と現在を繋いで未来へと向かう、人類的願望を感じさせる。	


珈1	まちなか／ベースキャンプ周辺 (万代島緑地) ※期間限定 10/10-10/11 (福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、万代島緑地)	
作家名	金野 千恵 (このの・ちえ)	イメージ 
作品名	timber messenger -山から海へ旅するカフェ-	
内 容	潟から潟へと旅するカフェ建築。山から伐採した樹木で形づくられる空間は、潟の環境によって変形しながら旅をして、やがて海へと辿り着く。自然の壮大なスケールから人間のスケール、さらに風景へと至るこの作品では、土地の食材や歴史を知る人々を通して、様々な物語が紡がれていっくだろう。	

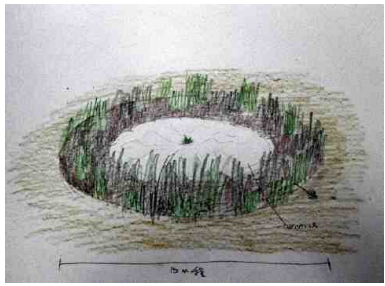
ベースキャンプ (旧二葉中学校)


葉1	ベースキャンプ (屋外/会場設営)	
作家名	岡昇平+徳本賢洛 (おか・しょうへい+とくもと・けんらく)	イメージ 
作品名	アプローチ。	
内容	近隣駐車場から歩いてくる来場者のためのアプローチ。水と土から育まれた植物によって涼しい日影がつくられる。収穫時期に合わせたワークショップ等も計画されている。	


葉2	ベースキャンプ (屋外)	
作家名	日比野 克彦 (ひびの・かつひこ)	1/4
作品名	明後日朝顔 NIIGATA2015	
内容	朝顔の育成を通して、人と人・人と地域・地域と地域のコミュニケーションを促し、現代社会に於ける人と地域の間を検証するプロジェクト。十日町市苜平に始まり、全国で取組が行われており、新潟市においても継続的に取り組まれている。	
		イメージ 


葉3	ベースキャンプ (屋内/会場設営)	
作家名	丸山美紀+長谷川明 (まるやま・みき+はせがわ・あきら)	イメージ 
作品名	新ガタログ	
内容	新潟の民俗や風習から浮かんだイメージを、拡大解釈し会場内に展開。旧二葉中に残された家具を新潟っぽく加工、どこかで見たことのあるようで、でもそれ自体ではないという架空の民具になる。それら全体が新潟の妄想カタログにもなっている。	


葉4	ベースキャンプ (コンピュータ室)	
作家名	イ・スギョン	※韓国
作品名	Translated Vases	
内容	韓国の伝統的な陶磁器工房から集めた不完全な破片を再構成した立体作品。作家の手により再構築された彫刻モンタージュは、明確な歴史参照、ジャンル、あるいは慣習から解放され、文化的な記憶や情緒的な感覚から距離をとり、今日的な造形物として存立する。	
		イメージ 


葉5	ベースキャンプ (グラウンド)	
作家名	丸山純子×深沢アート研究所 緑化研究室 カブ (まるやま・じゅんこ×ふかざわアートけんきゅうじょ りょくかけんきゅうしつ かぶ)	イメージ 
作品名	11 Brides	
内容	直径 10m の穴を掘り、潟ならでの植物を土とともに育てる。 11 人の花嫁がその潟に戻る。 人の記憶、時間、思いが循環していく。	


葉6	ベースキャンプ (CR、数学学習室)	
作家名	倉方俊輔 (くらかた・しゅんすけ)	イメージ 
作品名	仏壇の新潟と東アジア プロジェクト	
内容	身近にありながらも、見ていないもの。「仏壇」はその一つではないだろうか。潟とのかかわりから生まれた技術を結集してつくり出された新潟の工芸、仏壇に新たな光を当てながら、建築的な構築性と東アジアに連なる場所性を照らし出す。	


葉7	ベースキャンプ (少人数教室)	※再展示
作家名	大岩オスカル (おおいわ・オスカル) ※ブラジル、オーストラリア	
作品名	5つの船	
内容	旧栗ノ木排水機場、はぎ木、旧笹川家住宅などが配され、「水と土」の厳しさを思わせる水中風景が画面下に広がる。水面から顔を出すゴーストとなった「新潟」、ベサイ船などの時代を代表する5つの船が時を超えた歴史を語る。	


葉8	ベースキャンプ (こころの教室)	
作家名	石川 直樹 (いしかわ・なおき)	イメージ 
作品名	写真集「潟と里山」 (+撮影ドキュメント)	
内容	角田山から北国街道周辺を巡り、佐潟に至る一その中で出会う民俗・歴史・普段の暮らし・自然を、地球上を歩き続けてきた写真家が捉えた。佐潟での漁、砂丘の暮らしなど多くの写真が、潟の存在と、水と土の暮らし文化に光を当てていく。	


葉 9	ベースキャンプ (木工室)	
作家名	世界土協会 World Dirt Association (せかいつちきょうかい ワールド・ダート・アソシエーション)	イメージ 
作品名	Dirt Stage ～土の時間を育てる～	
内 容	世界土協会は新潟に点在する潟を中心に全国各地から集められた無数の土をステージに並べ、新たにこの空間で変化し関係し合う時間を観察する。地域社会と対話し、土に関するシンポジウムやワークショップの開催、機関誌を発行する。	


葉 10	ベースキャンプ (教務室)	
作家名	吉原 悠博 (よしはら・ゆきひろ)	イメージ 
作品名	培養都市 COLONY	
内 容	東京に依存する新潟と、新潟に活かされている東京という相互関係を象徴する高電圧送電ケーブル。作家は、刈羽から東京までの約 500 キロを 2 年がかりで追いつけた。新潟と東京の関係を再考し、アイデンティティの在り処を追求する作品。	


葉 11	ベースキャンプ (校長室)	
作家名	宮内 由梨 (みやうち・ゆり) 1/2	イメージ 
作品名	WHERE HAVE YOU GONE?	
内 容	清五郎潟の作品「清五郎さん」と繋がって、潟の底に広がる別世界のひとつを表現する。水面下の異世界に魅了された「お六」は夜な夜な潟を訪れ、清五郎の名を呼びながら、その実、沈んだ蠱惑的な世界に酔いしれていく。	


葉 12	ベースキャンプ (視聴覚室)	※再展示
作家名	酒百 宏一 (さかお・こういち)	イメージ 
作品名	Niigata 水の記憶マップ 2009～	
内 容	作家は、新潟市内の「水の記憶」の残る場所や物を色鉛筆の擦り出しの技法 (フロッタージュ) で写し取る制作を継続している。今回、2009 年に制作したマップを 2015 年版として更新し、作家自身のフロッタージュ作品とともに展示。	


葉 13	ベースキャンプ (保健室、調理準備室)		
作家名	友政 麻理子 (ともまさ・まりこ)	1/2	イメージ 
作品名	潟の夢映画祭		
内 容	市民の参加で、潟の夢を見、その夢の報告会を行い「潟にまつわる夢」の短編映画を制作、さらに上映会を行うことでコミュニケーションを生み、その交流の中から「潟」の像を浮かび上がらせようとするアートプロジェクト。		


葉 14	ベースキャンプ (理科準備室)		
作家名	日比野 克彦 (ひびの・かつひこ)	2/4	イメージ 
作品名	BOAT HOUSE DOCK YARD [船の家 造船所]ドキュメント		
内 容	作家・日比野克彦の作品は、社会活動そのものとなっている。BOAT HOUSE DOCK YARD [船の家 造船所]において実現する、潟のそばで市民の参加を得て展開する様々な社会活動をドキュメントするアーカイブ展示。		

葉 15	ベースキャンプ (調理室)		※再展示
作家名	磯辺 行久 (いそべ・ゆきひさ)		
作品名	新潟市環境資源目録		
内 容	「水と土」の過去から現在までを把握し未来を考える作品。新潟市の、地域資源の利用と歴史経緯を複数の地図にまとめている。展示を通して、水と土の過去と現在への理解を深めていただく作品。		


葉 16	ベースキャンプ (調理室)		※再展示
作家名	チーム・モノリス		
作品名	はがしたての地球—土壌モノリス		
内 容	土壌モノリスは、数百年数千年の時間をかけて出来上がった土の層をそのままはがし取った標本のこと。新潟市各所の土の層を展示する。年輪のように堆積したさまざまな土の層は、水に満ちた土地と川の歴史を物語る。		


葉 17	ベースキャンプ (ランチルーム)		
作家名	友政 麻理子 (ともまさ・まりこ)	2/2	イメージ
作品名	お父さんと食事		
内 容	作家と、「潟」に関係する地に住む作家の知らない市民が1回の食事の間だけ、お互いに「親子になる努力をする」という約束をして食事し、その様子から、新潟の文化や風習、歴史、願いなどを織りこんで顕在化しようとする映像作品。		
			

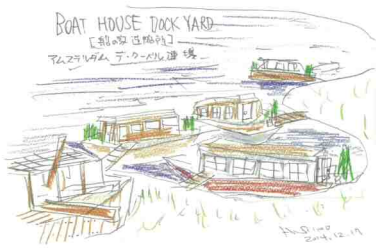
葉 18	ベースキャンプ (職員玄関)		
作家名	アトリエ・ワン	1/2	イメージ
作品名	佐潟なりわい観測舎ドキュメント		
内 容	佐潟の自然環境と、佐潟に関わってきた赤塚集落における生業の深い歴史。この地のアクター・ネットワークを明らかに紡ぎ出していくドキュメント。		
			


葉 19	ベースキャンプ (体育館)	※期間限定 10/4 公演	
作家名	大友 良英 (おおとも・よしひで)	イメージ	
作品名	オーケストラ NIIGATA!		
内 容	市民が自由に音の出るものを持って参加する即興オーケストラ公演。市民参加による、様々な独自のものが集まって一つのを創る活動を通して、皆で未来を考え共有していくきっかけにするプロジェクト。演奏者100名を公募し公演。		
			


サテライト および 鳥屋野潟 (メインフィールド)


鳥1	サテライト (清五郎潟)		
作家名	宮内 由梨 (みやうち・ゆり)	2/2	イメージ 
作品名	清五郎さん		
内 容	清五郎潟に残る寂しさを拾いあげた、切なく薄ら寒い物語を表現。夜更けになると、首が伸び魂を載せた頭が通りを彷徨い歩く「お六」。いつからか帰らぬ「清五郎」の身を案じ、よもや潟に落ちたのでは、と潟の中を探り見る。		

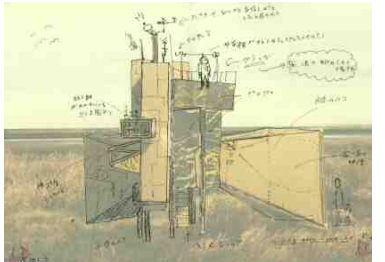
鳥2	サテライト (天寿園 茶室)		※再展示
作家名	岸本真之 (きしもと・まさゆき)		イメージ 
作品名	つぎつぎきんつぎ		
内 容	不要な湯のみ、皿など、市民から集めた陶磁器を「金継」(きんつぎ)という技法を摸してつないだインスタレーション。「土」から生まれた「やきもの」たちが、全く違う姿に生まれ変わった。「土」と市民の「暮らし」との関係を見つめなおすきっかけになることを願う。		

鳥3	サテライト (清五郎潟)、鳥屋野潟		
作家名	日比野 克彦 (ひびの・かつひこ)	3/4	イメージ 
作品名	BOAT HOUSE DOCK YARD [船の家 造船所]		
内 容	新潟市と同様の低湿地の街オランダ・アムステルダムのように、新潟のボートを潟のほとりに移設。ボートハウスのまちが生まれる。ボートハウスたちは潟を考えるオフィスになって、そこから多くの市民活動が生まれていく。それは「潟」の新しい活力源になっていくだろう。		

鳥4	鳥屋野潟		
作家名	大矢りか (おおや・りか)		イメージ 
作品名	田舟で漕ぎ出す。		
内 容	過酷な自然と対峙したかつての農作業と、乾田化の記憶を甦らせる。ヒトと自然との関わり方を改めて問う。このコンセプトを可視化するため、潟の名残としての鳥屋野潟を臨む場所に、「どろ」を使った「田舟」の形の作品を制作する。		


鳥 5	鳥屋野潟	
作家名	角館まさひで／ぼんぼり光環境計画 (かくだて・まさひで／ぼんぼりひかりかんきょうけいかく)	イメージ (作例) 
作品名	「あれっ！」-潟を再発見するあかりを探そう-	
内 容	ひかりのまちづくりの専門家が、都市部に隣接し街の灯りが見える鳥屋野潟の特徴を捉え、夜の観点から都市と潟の関係を捉える「潟を観測する場」を創出する。新しい観点を提供し、夜の新潟市の魅力づくりにも貢献する。	

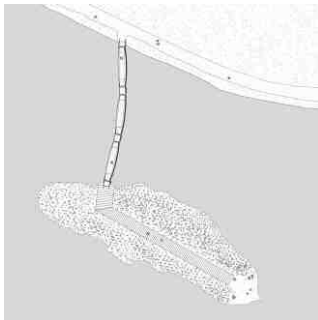
鳥 6	鳥屋野潟 (旧栗ノ木排水機場)	※継続展示
作家名	磯辺 行久 (いそべ・ゆきひさ)	
作品名	栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった	
内 容	かつては一面の湿地が広がっていた旧亀田郷。1948年に竣工した栗ノ木排水機場は、湿原を田園地帯に変貌させた。潟との関わりの深い遺構の一部を掘り出し、その歴史と水位の変化を体感させる作品。	


鳥 7	鳥屋野潟 (旧栗ノ木排水機場)	
作家名	u ru sa☆nai (ウルサナイ)	イメージ 
作品名	新潟宇宙	
内 容	「水と土」の強い個性を前に、作家は異邦者として地域と関係する。架空の行方不明の異星人探検家を設定し、不時着した宇宙船とその異星人探検家が残っていた新潟の記録のストーリーを紡ぎだす。SF感覚で新潟のアイデンティティに迫る異色の作品。	

珈 1	鳥屋野潟 (トリムの森) ※期間限定 8/8-8/23 (福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、万代島緑地)	再掲出
作家名	金野 千恵 (こんの・ちえ)	
作品名	timber messenger -山から海へ旅するカフェ-	
内 容	P. 15 珈 1 に同じ	

福島潟（メインフィールド）


福1	福島潟 ※期間限定 9/23 以降撤去。10/1 以降かたちを変えて展示	
作家名	安藤 栄作（あんどう・えいさく）	イメージ 
作品名	天と地の和解	
内容	東日本大震災に被災した作家が、人間が大自然や宇宙の理と再び和解することを願って制作する。作家がかつて慣れ親しみ、先人たちの大自然との壮大な対話の波動が息づく福島潟で「天と地の和解」のモニュメントを立ち上げる。	


福2	福島潟 ※期間限定 9/23 以降撤去。10/1 以降かたちを変えて展示	
作家名	ドットアーキテツ（家成俊勝＋赤代武志＋土井亘） （ドット・アーキテツ いえなり・としかつ＋しゃくしる・たけし＋どい・わたる）	イメージ 
作品名	潟の浮橋	
内容	福島潟周辺で活動する「ねっとわーく福島潟」の方々と協働し潟舟を制作する。その潟舟を浮かばせ連結した浮橋で陸と小島を繋ぐ。小島の葦が4m にまで成長するのを利用し小島の中に空間を作り、その小島自体を観測所としてリノベーションする。	

福3	福島潟 ※期間限定エリア内2箇所を移動	
作家名	【SHELTER】 project GOZU-NS （シェルター・プロジェクト・ゴズ・エヌエス）	イメージ 
作品名	TINY HOUSE ～知識の護美箱(GOMIBACO)～	
内容	おとぎ話に出てくるかのような、潟のほとりの「TINY HOUSE」。身の回りにある資源を有効活用して建てられたその小さな家は、大地にふりそそぐお日さまの光と潟を吹きぬける風の力を利用して電気を作る地球にやさしいエコな家。	

珈1	福島潟 ※期間限定 7/18-8/2 （福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、万代島緑地）	
作家名	金野 千恵（こんの・ちえ）	再掲出
作品名	timber messenger -山から海へ旅するカフェ-	
内容	P.15 珈1 に同じ	


佐潟（メインフィールド）


佐1	佐潟（砂丘畑）	
作家名	アトリエ・ワン	2/2
作品名	佐潟なりわい観測舎	
内 容	佐潟の自然環境と、佐潟に関わってきた赤塚集落における生業の深い歴史。この地のアクター・ネットワークを明らかに体験するために“歩く”こと。そしてその先には地形・生物・社会すべてを感じる風景体験が仕掛けられている。	
	イメージ	
		

佐2	佐潟（芝生広場）	
作家名	関根哲男（せきね・てつお）	
作品名	原生一立つ土	
内 容	生命は、土から生まれ土に帰り、無数の生命が土に連なっている。佐潟の稀有に豊かな自然を背景に得て、この土が力強く立つ姿を描き出し、土の強さと、自然・生命の尊さを訴えていく作品。	
	イメージ	
		

珈1	佐潟 ※期間限定 8/29-9/13 (福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、万代島緑地)	
作家名	金野 千恵（このん・ちえ）	
作品名	timber messenger -山から海へ旅するカフェ-	
内 容	P. 15 珈1 に同じ	
	再掲出	

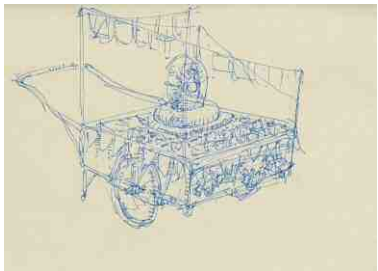
上堰潟（メインフィールド）


堰1	上堰潟	
作家名	藤野高志／生物建築舎 (ふじの・たかし／いきものけんちくしゃ)	
作品名	曲	
内 容	かつて上堰潟が人々の生活を支えていた頃、ぬかるむ土や、波立つ水と、人の身体は連続していた。そんな潟のリズムを再生するために、白くて長いアーチを架ける。風や人の動きによって緩やかに波打つアーチは、人の身体を、土や、水や、豊かな生物たちと繋いでゆく。	
	イメージ	
		


堰 2	上堰潟	※継続展示
作家名	土屋公雄 APT (=アートプロジェクトチーム) 田原唯之+木村恒介 (つちやきみお えー・びー・ていー たはら・ただゆき+きむら・こうすけ)	
作品名	海拔ゼロ	
内 容	海拔ゼロメートル地帯の、かつて腰まで水に浸かりながら農作業を行っていた時の水面の視界を実感する作品。潟地の暮らしの歴史を体感し、未来を考える。	


珈 1	上堰潟 ※期間限定 9/19-10/4 (福島潟、鳥屋野潟、佐潟、上堰潟、万代島緑地)	
作家名	金野 千恵 (このん・ちえ)	再掲出
作品名	timber messenger -山から海へ旅するカフェ-	
内 容	P. 15 珈 1 に同じ	


その他


阿 1	その他 (阿賀野川/松浜)	
作家名	高橋 伸行 (たかはし・のぶゆき)	イメージ 
作品名	旅地蔵 ー阿賀をゆくー	
内 容	阿賀野川をめぐる記憶を遡上し、今を生き抜く人にはじまり、今は亡き人や次代を担う人をたずね歩き、生きた証や声を掬いとる。新潟の「水」の重大事象である「新潟水俣病」を対象に、人やもの、場所の記憶や断片を掬い上げ提示していくプロジェクト。	


海 1	その他 (海 /西海岸公園)	※継続展示
作家名	南川 祐輝 (みなみかわ・ゆうき)	
作品名	おひるねハウス	
内 容	日本海に臨む小さな建築物。座ったり、寝ころんだりしながら、海の風と共に、水と土の風景を五感で感じ、未来を考える。	

海 2	その他（海 / 関分記念公園）	※継続展示
作家名	管 懷賓（グァン・ファイビン） ※中国	
作品名	心園の渡り	
内 容	日本海の彼方に向く、海や境を越えて繋がる心の交流を象徴する造形物。海と陸（水と土）を渡る、心の交流の現在と過去を見つめ未来を考えるきっかけをつくる作品。	

海 3	その他（海 / 角田浜）	※継続展示
作家名	浅葉 克己（あさば・かつみ）	
作品名	ヒエログリフ	
内 容	角田浜の海に臨む小高い台地に立つ、古代エジプトの象形文字が刻まれた真っ黒い石碑群。どこまでも続く日本海の水の景観の中で、過去・現在そして未来まで、人類文明の辿る時間に思いを馳せる作品。	

海 4	その他（海 / 五ヶ浜）	※再展示
作家名	アン・グラハム ※イギリス、オーストラリア	
作品名	Shinohara's House	
内 容	廃村（角海浜）から移築された茅葺き民家で、失われた村の風土と記憶を呼び覚ます。鳴き砂とビーズの流下音は、波音を意識させる。かつての集落と海（水）との厳しい関係の歴史を見つめ、未来を考えるきっかけになる。	

山 1	その他（里山 / 新津美術館・前庭）	※継続展示
作家名	高田 洋一（たかだ・よういち）	
作品名	水の声—Water Whisper	
内 容	作品内部空間には、頂上に蓄えた水越しの光が差し込み、頂上の水は水琴窟に落ち「水の声」を奏でる。光と音で「水」のゆらぎを体感する作品。	

山 2	その他（里山 / 秋葉公園）	※継続展示
作家名	前田 哲明（まえだ・のりあき）	
作品名	Untitled 09-01	
内 容	秋葉山中に置かれた作品。苔玉が大自然を象徴し人工的なステンレス玉が象徴する水や生命の輝きが、不思議な存在感で対比と融合を見せる。土と人間の関係、そして宇宙と未来を考えさせる作品。	

関連作品・過去の芸術祭に参加した作家を招へいた市民プロジェクト

作品番号	作家名	作品タイトル	展示箇所	種別
関 1	中村脩	潟写真展	新潟日報メディアシップ （仮）	関連
関 2	ひまわりプロジェクト	ひまわりプロジェクト	福島潟	関連
関 3	こどもプロジェクト 2009	清五郎開拓八人衆	鳥屋野潟	関連
関 4	こどもプロジェクト 2015	こどもプロジェクト 2015 作品展	こども創造センター 天寿園	関連
関 5	出会いをメディア化するプロジェクト	水と土の芸術祭 2015 フォトコンテスト	旧二葉中学校 ほか	関連
関 6	出会いをメディア化するプロジェクト	水と土の芸術祭 2015 シンボルマーク	旧二葉中学校 ほか	関連
市 1	市民プロジェクト （南条嘉毅）	小須戸 ART プロジェクト 2015	町屋ギャラリー薩摩屋ほか	市民 P
市 2	市民プロジェクト （白川昌生+小野田賢三）	ニュー沼垂ラジオ	沼垂テラス商店街とその界限	市民 P
市 3	市民プロジェクト （日比野克彦）	明後日朝顔プロジェクト NIIGATA2015	旧二葉中学校（理科室）ほか	市民 P
市 4	市民プロジェクト （KiKiKo）	白根アートプロジェクト	白根商店街内空き店舗	市民 P
市 5	市民プロジェクト （小原典子）	味方アートプロジェクト	笹川邸ほか	市民 P
市 6	市民プロジェクト （宇梶静江）	ウポポリムセ・アイヌに遊ぶ～ 宇梶静江さんとともに～	旧二葉中学校	市民 P
市 7	市民プロジェクト （Nadegata Instant Party）	礎窯 2015 ONE MORE CUP STORY	旧礎保育園	市民 P
市 8	市民プロジェクト （村木薫）	アート亀田 2015「記憶・追想・ 夢 in 亀田 ～玉垣より～」	亀田駅周辺ほか	市民 P
市 9	市民プロジェクト （前山忠）	旧米蔵を活用したアート展示 及び製作体験と食の交流	杜の蔵	市民 P
市 10	市民プロジェクト （藤浩志）	手部のガタガタ移動部活プロ ジェクト 2015	日比野克彦さんのポートハ ウス	市民 P
市 11	市民プロジェクト （クイビーン・オフラハラ）	矢垂川プロジェクト パート 2	矢垂川縁辺（西蒲区福井 2297 番地先）	市民 P

3-2 パフォーマンス

新潟には、過去から現代にかけて、地域住民が主体となった「おどり文化」が育まれてきた。また、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館にはNoismが日本で唯一の公立劇場専属舞踊団として所属し、国内外で活躍している。

こうした新潟の「おどり文化」を将来に受け継ぐべく、「他に類を見ないプログラム」「継続可能な事業」「Made in 新潟」を実現する公演や人材育成など、様々なプログラムを展開していく。新潟から世界一流の文化を発信するNoismをきっかけにして、新潟の環境が育んできたおどりのDNAを顕在化させ、「おどり文化」の更なる成熟を目指していく。

(1) 鑑賞型プログラム

ア Noism0 「愛と精霊の家」

「水と土の芸術祭 2015」を機に、Noismの新たなプロジェクトカンパニー、Noism0（ノイズム・ゼロ）を結成し、役者と舞踊家による新作を発表する。

イ Noism1 みずつち特別公演近代童話劇シリーズ vol.1 『箱入り娘』

Noism1 春の新作公演のうち、世代限定みずつち特別公演として開催する。

ウ 伝統楽器「樽砵」とNoism2のコラボレーション公演

伝承楽器・樽砵の演奏者と、Noism2の舞踊家によるコラボレーション公演を開催する。

エ Noism1メンバー振付企画

市内各所に展示されるアート作品からインスピレーションを得て、Noism1のメンバーが振り付けを行い、各展示会場で公演する。

(2) 参加型プログラム

ア Noismサマースクール

Noismメンバーを講師に迎え、舞踊家の育成と市民の創造活動を支援することを目指したサマースクールを実施する。

イ 柳都会みずつちスペシャル

パフォーマンス・ディレクターの金森穰とゲストによる対談企画の水と土の芸術祭スペシャルを実施する。

ウ リーディングカフェ in 水と土の芸術祭

Noism0メンバーの役者による戯曲朗読会。

(3) プログラム日程等

	プログラム	会場	公演日時	料金
1	Noism0 「愛と精霊の家」	りゅーとぴあ 新潟市民 芸術文化会館 劇場	9月4日(金) 午後7時～	一般:5,000円 学生:4,000円
2	Noism1 みずつち特別公演近代童話劇シリーズ vol.1 『箱入り娘』	りゅーとぴあ 新潟市民 芸術文化会館 スタジ オB	7月26日(日) 午後3時～	小学生限定公演 無料
			7月30日(木) 午後3時～	65才以上限定公 演 2,000円
3	Noism2×永島流新潟 樽砧伝承会	ベースキャンプ (旧二葉中学校) グラウンド	8月22日(土)、23日(日) いずれも午後6時30分～・ 午後8時30分～	500円
4	Noism1メンバー 振付公演	秋葉公園 前田哲明「Untitled 09-01」	8月29日(土) 午後3時～	無料
		西海岸公園 南川祐輝「おひるねハウス」	8月29日(土) 午後6時～	
		上堰潟 藤野高志/生物建築舎「曲」	8月30日(日) 午後3時～	
		信濃川やすらぎ堤 ジヤマ・ブレン「THE HEART OF TREES」	9月5日(土) 午後6時～	
		佐潟 関根哲男「原生-立つ土」	9月6日(日) 午後6時～	
5	Noismサマースクール ＜舞踊家コース＞ ①Noismメソッド ②Noismバレエ ③Noismレパートリー ＜一般コース＞ ①おとなのためのからだ ワークショップ ②Noismメソッド体験	りゅーとぴあ 新潟市民 芸術文化会館 スタジ オB	＜舞踊家コース＞ 8月8日(土)、15日(土) ①午前12時30分～午後2時 ②午後2時30分～午後4時 ③午後4時30分～午後6時 ＜一般コース＞ 8月9日(日)、16日(日) ①午後12時30分～午後2時 ②午後2時30分～午後4時	＜舞踊家コース＞ 1クラス1,000円 ＜一般コース＞ 1クラス500円
6	柳都会みずつちスペシャル	ベースキャンプ (旧二葉中学校) 体育館	9月6日(日) 午後2時30分～午後4時	無料
7	リーディングカフェ in 水と土の芸術祭	ベースキャンプ (旧二葉中学校) 音楽室	9月5日(土) 午後1時～午後3時30分	1,000円

4 シンポジウム

第2回芸術祭では、東日本大震災を踏まえ「自然との共生」をテーマに人間と自然との関係を考えるシンポジウムを開催した。今回の芸術祭でも同テーマを引き継ぐとともに、新潟らしい魅力（潟・食・おどり等）の発信と地域の活性化にも繋がるシンポジウムを開催する。

「水と土」の新潟の結実であり、貴重な文化でもある「食」に積極的に取り組み、食と「文化」とのかかわり、食と「環境」とのかかわり、食と「農」、「米」など、様々な観点から、「食」に迫る。「食」を話題の契機として、新潟の本質に迫り、「潟」に想いを馳せるシンポジウムを開催する。

(1) テーマ：「自然との共生」 サブテーマ：「水と土」と「食」 そして潟へ

(2) 実施概要

ア 第1回 プレシンポジウム

- タイトル 自然との共生 — 「水と土」と「食」そして潟へ
- 概要 新潟の地元の郷土料理や地元食材を考え、その背景となる水と土の環境にまで考えを及ぼせる。「食」に深い見識を持つ京都の料亭の料理人を迎え、食文化への理解を深め、背景にある「農」「環境」そして「潟」について理解する。
- 開催 2014年9月29日(月) 午後6時～午後7時45分
- 会場 りゅーとぴあ能楽堂
- 出演 <基調講演「日本料理の素敵な世界」>京料理木乃婦 料理長 高橋 拓児
<トーク「食と環境」>
パネリスト
高橋 拓児 (京料理木乃婦 料理長)
諸橋 弥須衛 (諸橋弥次郎農園 当主)
佐藤 智香子 (料理教室「waioli kitchen」主宰、野菜ソムリエ)
コーディネーター：鈴木 聖二 (新潟日報社 取締役特任論説編集委員)

イ 第2回 プレシンポジウム

- タイトル 自然との共生 ～ 命はぐくむ水と土とのグラデーションをみつめて ～
- 概要 「潟」と「人」そしてあらゆるものをつなぐ基盤となる「土」。かつて、「潟」と「人」の関係は密接であり、様々な創造性・文化を社会にもたらしてきた。その足元に、やはり「土」が在る。このイベントは、「土」がつなぎ育む環境、「土」が生み出す文化を講演だけでなく、多様な観点から新潟の潟に迫るものである。
- 開催 2015年2月11日(水・祝) 午後2時～午後5時
- 会場 新潟市民プラザ
- 出演 <第一部 トーク&ライブ「愛を耕すものたちよ」> 加藤 登紀子
<第二部 パネルディスカッション『「里潟」～潟と人のいい関係』>
パネリスト
吉川 夏樹 (新潟大学 農学部 准教授)
志賀 隆 (新潟大学 教育学部 准教授)
コーディネーター：大熊 孝
<第三部 新潟・潟へのメッセージ「潟から、あなたへ」>
朗読：加藤 登紀子、国見 修二
※進行：遠藤 麻理 (FM PORTナビゲーター)

ウ 第1回 シンポジウム

- タイトル 「潟をあらわすということ 潟であらわすということ」
- 概要 新潟の「潟」は、とても特徴的な存在である。この「潟」が、新潟の自然風土・文化風土としてどのような存在で、その存在感をどのように読み解いていくのか、ということは、「潟」を文化の文脈に載せること、つまり「潟をあらわす」ための基盤として重要である。その読み解きにおいては、自然と文化、両側面を総合した視点が必要である。それは自然環境との関わりにおいて、現代人が突きつけられている課題ともリンクしてくる。3.11以降、自然は、科学として捉えるだけでなく、文明・文化にとっていかなる存在かということも含めて考えていかなければならない。そして、そうした総合的視点を持って捉えた「潟」を、どのように表現行為につなげていくか。今回の芸術祭では、貴重な自然である「潟」にアートを持ち込むという挑戦的な取り組みを行ってきた。このシンポジウムでは、さらにその独自の取り組みをディスカッションを通じて検証し、今後の表現展開に活かす知見を得たい。
- 開催 2015年7月19日(日) 午後2時～午後5時30分
- 会場 ビュー福島潟 6F展望ホール(第一部、第二部)及び潟来亭(第三部)
- 出演 <第一部 基調対談 「潟をよみとく ～潟環境の民俗学的視座～」>
鳥越皓之(社会学者、民俗学者、大手前大学副学長、早稲田大学名誉教授)
曾我部昌史(建築家/水と土の芸術祭2015 建築ディレクター)
- <第二部 パネルディスカッション「潟であらわす～表現と環境保全のはざま」>
パネリスト
鳥越皓之
柳谷牧子(環境省自然環境局自然環境計画課 湿地保全専門官)
ドットアーキテクト(本芸術祭参加作家)
アトリエ・ワン(本芸術祭参加作家)
藤野高志/生物建築者(本芸術祭参加作家)
コーディネーター:曾我部昌史
- <第三部 ミニ公演「潟であらわす～伝承と妄想のつばさ～」>
前田司郎(劇団「五反田団」主宰)
吉田悠軌(怪談師)

エ 第2回 シンポジウム

- タイトル 水と土の地における米
- 概要 「水と土の地」新潟における米づくりは、長く自然との共生の中に持続してきたが、過度な近代化の中で持続可能な環境営為から乖離してきた。この現状に警鐘を鳴らし、豊かで健康な「食」を取り戻すための「農」のあり方、「食」の今後のあり方について話し合う。
- 開催 2015年9月19日(土) 午後1時30分～午後4時(予定)
- 会場 ベースキャンプ(旧二葉中学校)体育館
- 出演 <基調対談>
藤沢周(作家、法政大学教授)
伊勢みずほ(食・おもてなしディレクター)

<パネルディスカッション>

パネリスト

藤沢周

野中昌法（新潟大学・農学博士）

宮尾浩史、宮尾久美子（宮尾農園）

鈴木将（有限会社寿々瀧専務取締役/「渦るカフェ」フードプロデューサー）

コーディネーター 伊勢みずほ

(3) みずつち座談会

水と土の芸術祭 2015 のアーティストと、新潟のまちづくり等で活躍する有識者との対談である。対談を通じて、作家と作家を取り巻く地域の文化動向、作品内容をより深く感じてもらうとともに、有識者の活躍にも目を向けてもらう。また、来場者が対談ゲストに、対等の目線で質問したり、意見を言ったりできる座談会とし、来客に、作品や地域文化への思わぬ気づき、そして新潟での文化創造活動への強い思いが生まれていくことを願う。

ア みずつち座談会 第1回 プレイベント

- タイトル 「あかりからのまちづくりーとやの渦で行う照明実験から都市と建築をつなぐあかりの手法ー」
- 開催 2015年6月5日（金）午後7時～午後8時
- 会場 新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」 講義室A
- 出演 角館まさひで × 曾我部昌史

イ みずつち座談会 第2回 プレイベント

- タイトル 「イ・スギョン」
- 開催 2015年7月11日（土）午後5時～午後6時30分
- 会場 NEXT21 1階アトリウム
- 出演 イ・スギョン × 高晟竣

ウ 第1回 みずつち座談会

- タイトル 「表現と“痛み”のむこうに」
- 開催 2015年7月26日（日）午後2時～午後3時30分
- 出演 高橋伸行 × 和合亮一 × 丹治嘉彦

エ 第2回 みずつち座談会

- タイトル 「新潟アート／映像表現と音楽表現の現在(いま)」
- 開催 2015年8月1日（土）午後2時～午後3時30分
- 出演 吉原悠博 × 福島諭 × 藤由暁男

オ 第3回 みずつち座談会

- タイトル 「新潟アート／過去と現在(いま)そして未来へ」
- 開催 2015年9月12日（土）午後2時～午後3時30分
- 出演 関根哲夫・前山忠・堀川紀夫・佐藤秀治 × 大倉宏

※ ウ～オの会場はすべて、ベースキャンプ（旧二葉中学校）3階特別活動室

5 食・おもてなし

「食・おもてなし」は、地域の方の積極的なおもてなしにより、来場者の満足度を向上させる取り組みであり、地域の活性化や、地域経済に新たな動きが発生していくことの契機となることを目指すものである。多くの地域住民や、経済団体・地元業者等の参加があり、地域に新たな刺激がもたらされ、創造的な課題解決の動きが発生することを求めたい。ひいては閉幕後にこれらの効果が波及していくことを目指したい。

今回芸術祭においては「潟」や「食」に着目し、これに地域・農業・観光の観点をもって、取り組むものとする。

(1) カフェ

ベースキャンプやメインフィールドにおいて、カフェを展開する。水と土の「出会い」をテーマにしたメニューを提供する。

ア 潟るカフェ

キッチンカーがメインフィールドを巡り、それと併せて作家金野氏の作品である設えも、遊牧民の棲家に学びながら形を変えていく、潟を旅する移動式カフェを展開する。来場者は各地域の生産者や住民と交流したり、市内各地域の食など様々な違いを認識し合う。「料理」をただ「食べる」のではなく、その背景にある歴史や人との出会いの機会を創出する。

- 営業場所 概ね3週間ごとにメインフィールドを巡る
 - ・福島潟 7月18日(土)～8月2日(日)
 - ・鳥屋野潟 8月8日(土)～8月23日(日)
 - ・佐潟 8月29日(土)～9月13日(日)
 - ・上堰潟 9月19日(土)～10月4日(日)
 - ・万代島緑地 10月10日(土)～10月11日(日)
- 営業日 上記期間の毎週土日のみ
- 営業時間 午前11時～午後3時
- その他 メインフィールドなどで食の交流会イベント実施予定
 - ・福島潟 7月26日(日) 未来へつなぐガストロノミーの旅
 - ・鳥屋野潟 8月9日(日) 里潟と都市を測る旅
 - ・佐潟 9月12日(土) 最高の朝ごはんの旅
 - ・上堰潟 9月27日(日) 自転車でめぐる時と空間の旅
 - ・万代島緑地 10月10日(土) 世界へつなぐガストロノミーの旅

イ 潟るカフェ 購買部

ベースキャンプにおいて、セルフサービス形式のDELIカフェを設置。館内の指定休憩スペースでの飲食や、軽食を購入し「潟」へ行くことも可能とする。パッケージには広報ロゴを入れたものを提供し、購入者がメディア化するように工夫する。

- 営業場所 ベースキャンプ(旧二葉中学校)ランチルーム内
- 営業日 7月18日(土)～10月12日(月・祝)
 - ※休業日 毎週水曜日(8月12日(水)、9月23日(水))を除く
- 営業時間 午前11時～午後5時(予定)

(2) 地域のおもてなし

「潟」は素晴らしい自然、素晴らしい景観に溢れている。自然と調和したアートによってより多くの方々に注目される機会を活かし、地域住民の自主的な企画で、お客様への「おもてなし」を展開する。舟や食など地域の様々な自主企画によって、人との出会いの喜びを演出し、潟の背景にある歴史や文化などのストーリーへの興味を促し、多くの方々の満足度の向上に繋げる。

	団 体	事業名	開催日	時 間	料 金
鳥屋野潟	新潟市南商工振興会（鳥屋野潟ブランド創造委員会）	潟マルシェ	毎週日曜	午前9時30分～ 午後1時 ※9/20、10/11のみ 午後4時～午後7時	有料
	鳥屋野潟漁業協同組合	潟舟体験	7/19、26 8/2、9 9/6 10/4、11	午後1時～ 午後4時	無料
福島潟	ねっとわーく福島潟	潟舟体験乗船	7/25、26 8/1、2、8、9、15、 16、22、23、29、 30 9/5、6	午前9時～ 午後4時	大人 400円 子ども 200円
		潟先案内	7/25、26 8/1、2、8、9、11、 12、13、14、22、 23	午前9時30分～ 午後3時30分	無料
佐潟	佐潟村	地場野菜販売	毎週土日	午前中 (なくなり次第終了)	有料
	佐潟・赤塚歴史ガイド	赤塚史跡案内	「ツアーバス運行日」及び「潟るカフェイベント実施日」	未定	無料
	佐潟ボランティア解説員	佐潟案内	第2・4土曜	午前9時30分～ 午前11時	無料
	佐潟と歩む赤塚の会	潟舟体験乗船	8/29	午後1時～	大人 500円 子ども 300円
上堰潟	松野尾コミュニティ協議会	田舟乗船体験	9/6、13	午前10時～ 午後3時	大人 200円 子ども 100円
	JA女性部巻支部	地場野菜販売	毎週日曜	午前9時30分～ 午前11時30分 (なくなり次第終了)	有料

(3) ひまわりプロジェクト

神戸から中越、東日本大震災被災地へとつながる復興の願いを込めたひまわりの種を植えて、芸術祭のお客様を迎える、潟の周辺で展開するプロジェクト。単にひまわりを見るのではなく、その背景にある人と人、地域同士のつながりを大切にする。

○ 実施時期

植ええ：2015年5月30日（土）

メッセージプレートも一緒に添えて震災被害に遭われた方へ未来へのメッセージ、ひまわりへのメッセージ、芸術祭へのメッセージなどと共にひまわりの種を植える。

開花：7～8月頃

種の収穫イベント実施及び無料配布：9月頃

○ 会場 ビュー福島潟公園敷地内

(4) 商品（グッズ）企画

芸術祭に来場されたお客様が、関連グッズを入手することで、満足度をより一層高めていただき、グッズの露出により、芸術祭に関する新たな出会いが生まれPR効果につながることを目指す。

パッケージや商品ラベル等をデザイン監修し、共通買い物袋、ラベルシール等を、実行委員会が制作して支給する。デザインについては、ショップ・カフェ等と協議して、全体としての統一感づくりを目指す。

○ ショップ業者は様々なグッズ商品選定およびパッケージ等のリデザインを行い、販売する。

○ 広報計画上重要なグッズを、実行委員会で制作し、PR運用する。（広報計画と連動）

※羊かん、メモ帳等

6 その他事業

新潟市の歴史・文化・自然・食等を発信する事業や、オープニング・クロージングイベント等、実行委員会が主催して行う。

- 内覧会・前夜祭 2015年7月17日(金)
メインフィールド・ベースキャンプ等
- オープニング 2015年7月18日(土)
NEXT21 1階アトリウム(予定)等
- にいがた収穫祭 2015年9月19日(土)～23日(水・祝)
ベースキャンプ
- にいがた神楽舞アーカイブ公演 2015年9月20日(日)～23日(水・祝)
ベースキャンプ
- クロージング 2015年10月12日(月・祝) ベースキャンプ

7 市内連携事業

市内にある美術館・博物館等の下記の文化施設のほか、市民団体、商店街、農業団体、事業所・企業と連携し、関連の企画展や公演、イベントを開催していただく。芸術祭のホームページやチラシ等による広報の連携や、一体的な情報発信を行うとともに観覧料の減免などを通じ、相乗効果を図り、芸術祭全体の盛り上げにつなげる。

なお、新潟市歴史博物館みなとびあではプレ事業として企画展「田んぼで魚とり展～低湿地の漁と漁具～」を開催。マリニピア日本海でも関連企画展を開催予定。

○市所管

マリニピア日本海	水の駅「ビュー福島潟」
新潟市美術館	新潟市旧齋藤家別邸
新津美術館	旧笹川家住宅
新潟市會津八一記念館	曾我・平澤記念館
マンガ・アニメ情報館	しろね大侃と歴史の館
新潟市歴史博物館みなとびあ	潟東歴史民俗資料館
旧小澤家住宅	潟東樋口記念美術館
新津鉄道資料館	澤将監の館
いくとびあ食花	中之口先人館

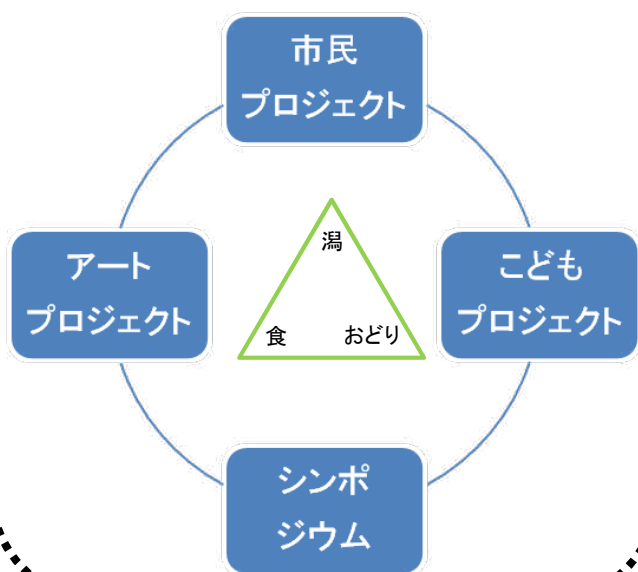
○民間・県運営

敦井美術館	新潟県立植物園
小野塚美術館	新津記念館
雪梁舎美術館	北方文化博物館本館
知足美術館	北方文化博物館新潟分館
中野邸美術館	巻菱湖記念時代館
にいがた文化の記憶館	
新潟県立近代美術館	
新潟県立万代島美術館	

水と土の芸術祭 2015

本体事業

市民・地域・実行委員会主体



市内連携事業

文化施設、市民団体等主体

文化施設
市民団体等
による事業

IV 建築と空間構成

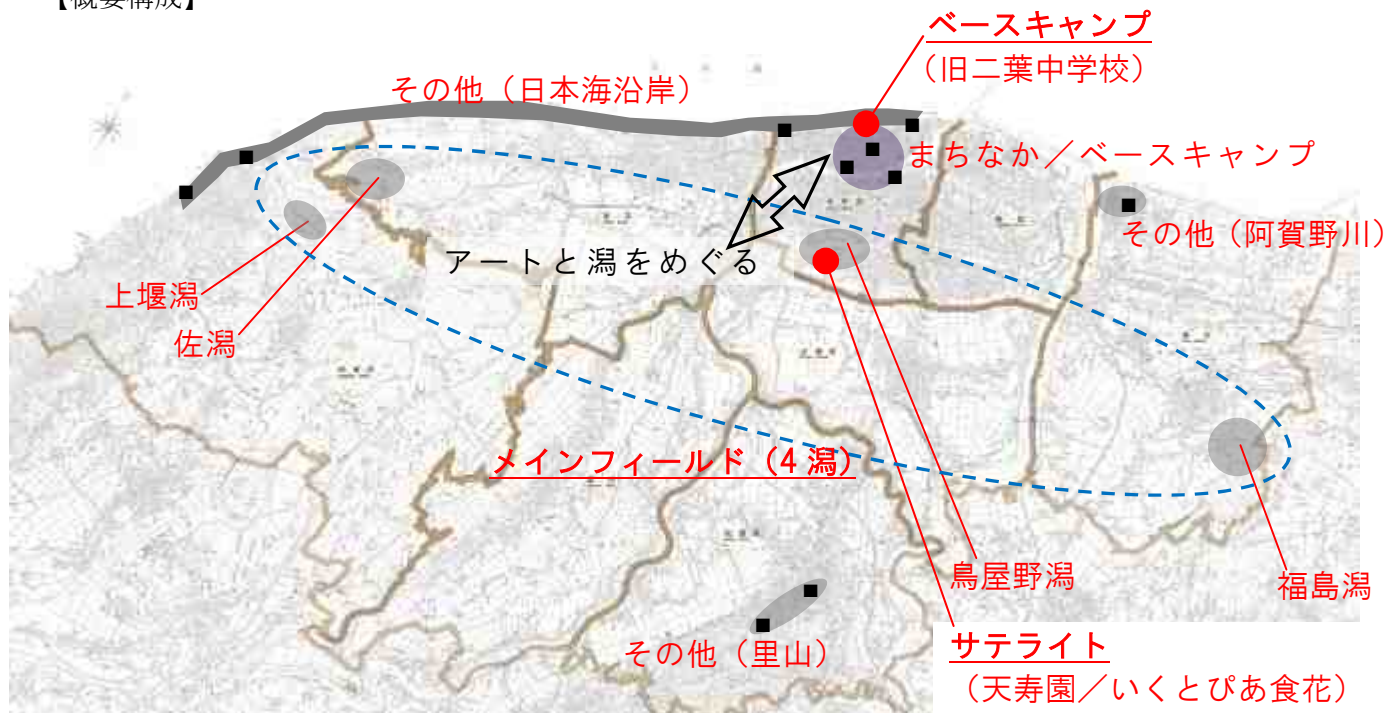
新潟市に点在する「潟」のうち代表的な4つの潟（鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟）をメインフィールドとする。また、ベースキャンプ（旧二葉中学校）及びサテライト（いくとぴあ食花・天寿園）を設定し、メインフィールドに来客を導くための起点とし、内容的に潟とつながり連動させる。

さらに、ベースキャンプ近くで、公共交通機関で容易に行ける箇所を「まちなか／ベースキャンプ周辺」とし、萬代橋、古町、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）の周辺をこのエリアとする。

パフォーマンス公演やシンポジウムについては、それぞれに応じた会場を設定するが、新潟市民芸術文化会館（りゅーとぴあ）は、パフォーマンス会場として重要な位置づけとなる。

その他、上記までのエリアに入らない作品等は、阿賀野川、日本海沿岸、秋葉区の里山に分類され、市民プロジェクトは各地で市民の企画に沿って展開される。

【概要構成】



この地図は、新潟市の承認を得て、新潟市発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号）平26新都第494号の2

1 メインフィールド

新潟の「潟」を水と土の象徴として、これを最大限重視して企画構成する。「潟」のうち規模の大きい「鳥屋野潟」「福島潟」「佐潟」「上堰潟」を「メインフィールド」とする。作品は、「潟」に設置されるか、あるいは、潟に関連し潟へと誘うものとなる。

2 ベースキャンプ

「潟」は郊外の比較的離れた場所にあり、来場者にはやや分かりにくい。このため、最初に分かりやすい会場を設定して、ここに足を運んでもらい、潟の特性、場所、行き方、展開している作品やイベント等について情報を発信し、潟へと赴いてもらうようにする。この会場を「ベースキャンプ」と位置付け、旧二葉中学校にこれを置く。

(1) 位置づけ

4潟（鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟）に来客を導くための起点とし、会場は潟から離れているが、潟の形成に深く関係する砂丘列の頂に建ち、日本海と古い街なみの両方が眺望できる絶好のロケーションである。展示内容的には潟と繋がり連動している。

(2) 会場づくりの方向性

- 既存の空間の雰囲気・残置物等を活かしたリノベーションにより、会場づくりをする。
- 内部空間は作家「丸山美紀+長谷川明」のデザインによる。
- 屋外ゲート部は作家「岡昇平+徳本賢洛」のデザインによる。
- 「丸山美紀+長谷川明」と「岡昇平+徳本賢洛」は相互に連携しながらデザインを進める。
- エントランス部分には「東アジア文化都市 2015 新潟」と「水と土の芸術祭 2015」をインフォメーションブースを設置する。

(3) ベースキャンプ（旧二葉中学校）の内容

ア 一般

カフェ、厨房、ショップ、ストックヤード、授乳室、救護室、事務室・サポーター室、放送室、インフォメーションブース、ラウンジ、貸出し室

イ 展示

作品展示室（インスタレーション、ドキュメント、プロジェクト活動室）、水と土・潟の紹介展示、市民プロジェクト展示室

ウ イベント等(体育館部分)

演奏会イベント（大友良英氏によるオーケストラ）、シンポジウム、その他公演のためのプロ舞蹈家の練習、ワークショップ等、

※空き時間については、利用内容を審査したうえで創造事業のために市民に貸し出す。

エ 駐車場

ベースキャンプ（旧二葉中学校）の敷地内に一般車両は駐車不可とする（歩行困難者の駐車のみ可）。西堀地下駐車場など NEXT21 周辺の有料駐車場に駐車の上、ベースキャンプ行きシャトル便を利用してもらい、土日祝日には、新潟市美術館周辺の臨時駐車場も利用可とする。

※西堀地下駐車場を利用の場合、ベースキャンプにて2時間無料券を渡す（駐車券の提示が必要）

(4) ベースキャンプにかかるバリアフリー等の考え方

ア 車いす利用者への誘導対応

歩行困難者専用駐車スペースを設ける。また、ベースキャンプ内は、経路が複雑であり、自力での移動が困難な部分もあるためスタッフにより案内・誘導する。その他、歩行者困難者専用トイレを設置する。

イ 視覚障がい者への誘導対応

シャトル便等で来る場合には、運転手等との連携でスタッフにより案内・誘導し、歩いて来る場合には、門からインフォメーションまでの誘導を実施する。また、インフォメーションに辿りついたあとは、誘導用床材、注意喚起用床材等の設置がない為、スタッフによる案内・誘導を実施する。

ウ 乳児連れのお客様への対応

授乳場所の確保（授乳及びおむつ交換のできる場所、ベビーベッド・汚物入れ・洗面台等）し、便所内にベビーチェア等を設置した便房を設ける。

3 サテライト

こどもプロジェクトの展開など、メインフィールドやベースキャンプとは異なる特色ある事業を行う拠点として、いくとびあ食花および天寿園（隣接する清五郎潟を含む）を「サテライト」として設定する。

(1) 位置づけ

こどもプロジェクトの展開など、ベースキャンプとは異なる特色ある事業を行う拠点とし、潟に隣接し、内容的に潟とのつながりを意識して展開する

(2) いくとびあ食花の内容

- こども創造センター・集いの広場
こどもプロジェクトの各種ワークショップ
- 食育・花育センター
こどもプロジェクトの料理教室（調理実習室）

(3) 天寿園

こどもプロジェクトワークショップ、こどもプロジェクトワークショップ成果物展示、再展示作品の展示。

4 その他会場

(1) まちなか／ベースキャンプ周辺

市内中心部に、芸術祭及び東アジア文化都市の総合インフォメーションと、シンボルとなるアート作品を設置し、芸術祭の開催を印象付け、ベースキャンプとメインフィールド（潟会場）へと導く。総合インフォメーション近隣には、メインフィールド行きツアーバスとベースキャンプ行きシャトル便のバス停を設置し、市内中心部とメインフィールドおよびベースキャンプとを利便性高く繋ぐ。

(2) その他展示会場

ア 高橋伸行「旅地藏－阿賀をゆく－」作品展示

- 松浜の家（新潟市北区三軒屋 9-20）
 - ・開館日時 2015年7月18日（土）～10月12日（月・祝） 午前10時～午後5時
 - ※休館 毎週水曜（ただし8/12、9/23は開館）

- nico（新潟市北区松浜本町 1-20-18）
 - ・屋外展示となる。※見学可能時間 午前10時～午後5時

イ アン・グラハム「Shinohara's House」作品展示

- 篠原幸三郎家住宅（新潟市西蒲区五ヶ浜）
 - ・開館日時 2015年7月18日（土）～10月12日（月・祝） 午前10時～午後5時
 - ※休館 毎週水曜（ただし8/12、9/23は開館）

ウ 高田洋一「水の声 - Water Whisper」作品展示

- 新津美術館前庭（新潟県新潟市秋葉区蒲ヶ沢 109番地1 花と遺跡のふるさと公園内）
 - ・開館日時 2015年7月18日（土）～10月12日（月・祝） 午前10時～午後5時
 - ※休館 毎週月曜（祝日・振替休日の場合はその翌日）、展示替えに伴う臨時休館あり

エ 南川祐輝「おひるねハウス」作品展示

- 西海岸公園（新潟市中央区）

オ 管懷賓（グァン・ファイビン）「心園の渡り」作品展示

○ 関分記念公園（新潟市中央区）

カ 浅葉克己「ヒエログリフ」作品展示

○ 角田浜（新潟市西蒲区）

キ 前田哲明「Untitled 09-01」作品展示

○ 秋葉公園（新潟市秋葉区）

5 インフォメーション等

水と土の芸術祭 2015 の各種案内を行うインフォメーションを設置するとともに既存の観光案内所とも連携していく。また、「東アジア文化都市」のインフォメーション機能も持たせる。

(1) 有人インフォメーション

ア ふるまち総合インフォメーション（NEXT21 1Fアトリウム内）

中国人建築家「肖 潇（シャオ・シャオ）」が設計する建築作品であり、各種案内及びガイドブック販売等を行う。

イ ベースキャンプインフォメーション（ベースキャンプエントランス部周辺）

作家「丸山美紀+長谷川明」が設計する建築作品であり各種案内を行う。

ウ インフォメーションセンター「えん」（新潟日報メディアシップ1F）

メディアシップのインフォメーションセンターの展示棚にて情報発信し、かつ、受付カウンターでガイドブックを販売する。受付では、簡易な芸術祭の案内も行う。

エ 新潟駅観光案内所（万代口、南口）と連携

(2) 簡易インフォメーション

○ ロゴサイン掲示（目印）、チラシ棚、最新の重要告知の掲示等

○ リサイクルが可能で、かつ処分費が軽減できる素材の活用などを検討する

○ 西堀ローサ入口のガラスピットや、連携する文化施設等に設置

6 屋外掲示物等

(1) 看板類

ア 作品解説版

イ 歩行者用誘導案内板

ウ 車両用誘導案内板

(2) のぼり

ア 「水と土の芸術祭 2015」の目印となるのぼり。

イ 盛夏から秋にかけての使用であるため、すべての季節に対応できるようデザイン検討。

ウ デザインイメージは広報C I計画に沿う。

(3) バナー等

ア 新潟駅内、街なかの主要箇所、ベースキャンプ、各会場、各会場への交通拠点（バス停等）、移動物等に、目印となる掲示物を設置する。

イ 芸術祭開催を多くの人に印象付けるとともに、来場者の円滑な移動に寄与する。

ウ 設置は広報C I計画とも連動して、計画的に行う。

V 交通関係・ツアー

1 基本方針

- (1) この芸術祭においては、来場者の観賞における交通利便性の確保に留意する。特に、新幹線、飛行機等で新潟市を訪れたお客様が、可能な限り作品巡りができるよう、二次交通を充実させる。
- (2) メインフィールドである郊外の潟への利便性を考慮し、ツアーバスを運行し、自家用車でなくとも楽しめる芸術祭を目指す。
- (3) ベースキャンプは一般車両駐車禁止とする。公共交通でのアクセスを推奨するため、古町からのシャトル便を運行する。また、自家用車で来られる方については、古町からパークアンドライドでのアクセスを推奨する。
- (4) ベースキャンプ周辺のまち歩きを楽しんでもらうほか、レンタサイクルの活用を図る。

2 実施概要

(1) メインフィールドおよびベースキャンプへのアクセス

「NEXT21」西堀側のバスベイより、メインフィールド行きツアーバスとベースキャンプ行きシャトル便（ジャンボタクシー）を運行する。

ア メインフィールド行きツアーバス

新潟市の市街地中心部（古町エリア）と鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟のそれぞれを繋ぐ二次交通を整備して、お客様が潟へと足を運び、潟に設置されたアートや地域のおもてなしを楽しむ機会を創出する。

○ バス運行区間

- コース1 ①古町（NEXT21 西堀側バスベイ）～ ②福島潟（ビュー福島潟）
～ ③鳥屋野潟（いくとぴあ食花）
- コース2 ①古町（NEXT21 西堀側バスベイ）～ ②上堰潟（上堰潟公園第2駐車場）
～ ③佐潟（佐潟水島・湿地センター）
～ ④鳥屋野潟（いくとぴあ食花）

○ 料金 無料（要ガイドブック提示）

○ 申込み 事前申込み制

席に余裕がある場合は、当日乗車を受け付けるものとし、その旨も広報する。

○ 運用期間

会期中の土日祝日 31 日間のうち、コース1・2のルートを一便ずつ日替わりで運行。

コース1 福島潟 + 鳥屋野潟

午後1時30分～5時30分（計4時間／日：16日間）

コース2 佐潟・上堰潟 + 鳥屋野潟

午後1時30分～5時30分（計4時間／日：15日間）

○ 運行

- ・全てのバスは目的地に到着後、その場で出発時刻まで待機。
- ・運行時間中は、委託者が作成した「水と土の芸術祭 2015」の掲示（着脱式）を車体に添付。

○ 機材 小型バス（27人乗り）

イ ベースキャンプ行きシャトル便（古町とベースキャンプをつなぐジャンボタクシー便）

水と土の芸術祭2015の開催に際し、新潟市の市街地中心部（古町エリア）とベースキャンプを終日繋ぐ循環的な二次交通を整備して、お客様の利便性に貢献する。

○ 運用区間

①古町（NEXT21 西堀側バスベイ）～②新潟市美術館～③旧二葉中学校

○ 料金 無料（要ガイドブック提示）

○ 運行期間 平成27年7月18日～10月12日のうち、休館日を除く77日間

○ 運行時間

土日祝日及び8/13(木)、14(金)

①10:00～11:00 1台運行（20分サイクル）

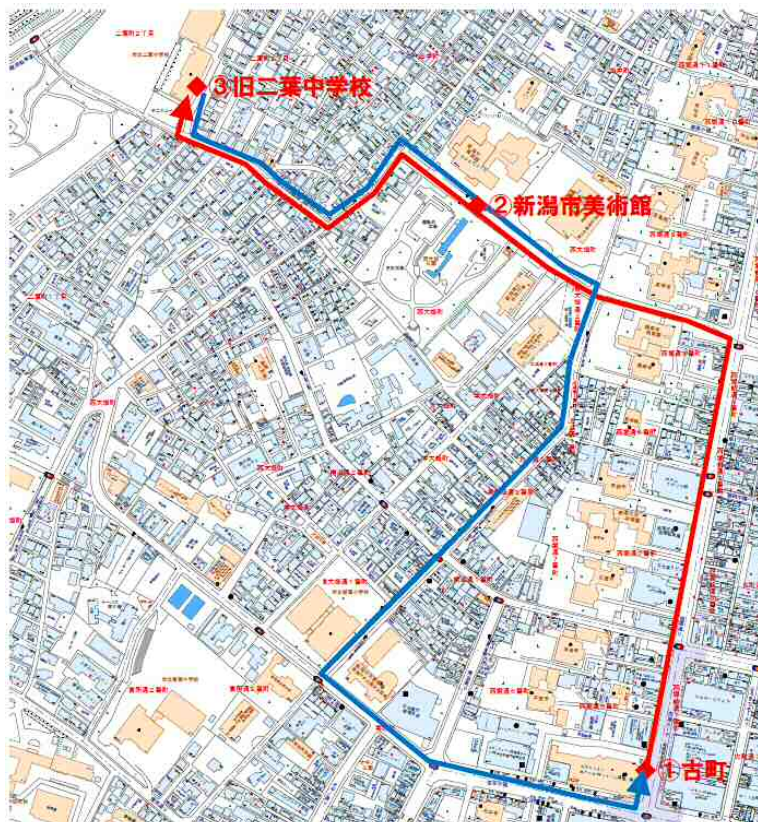
②11:00～15:00 2台運行（10分サイクル）

③15:00～18:00 1台運行（20分サイクル）

平日

①11:00～15:00 1台運行（20分サイクル）

○ 経路



(2) 有料バスツアー

アート観賞のツアーバスだけでなく、水と土の芸術祭2015のアート・湯巡りに、食や観光地巡り、体験など、+αの価値を追加したバスツアー（有料）を催行することで、より広く多様な方が楽しめるものとする。

アート巡りと観光を組み合わせたバスツアー（有料）

○ 会期中 2回程度催行（芸術祭と、秋の食を楽しむツアー）

○ 主に 午前9時30分頃発～午後4時30分頃帰着

○ 湯（アート）、観光施設、観光名所、食の名所 を巡る。

- 例 ツアー1 鳥屋野潟・福島潟・沼垂（発酵）を巡る
- ツアー2 佐潟・上堰潟・ワイナリーを巡る

(3) 旅行エージェントによるツアー創出

- ア 旅行エージェントによる「水と土の芸術祭」を活用したツアーパッケージの創出を促進
- イ 「マリンピア日本海」「いくとぴあ食花」「岩室温泉」など、市内の観光資源の活用促進
- ウ 「大地の芸術祭」「佐渡」「庄内」「会津若松」など周辺観光地域も含めたツアー化促進
- エ ビジット・ジャパン・キャンペーンに参加し、主として韓国等からの海外誘客を目指す

(4) 近距離輸送についてはレンタサイクルなど、環境に配慮した移動手段を活用する。

(5) ふるまち総合インフォメーションと、ベースキャンプ（旧二葉中学校）との間の区間にある西大畑地区は、歴史的建造物などが多々ある。この地区のまち歩きも楽しんでいただく機会を創る。

3 その他

- (1) ベースキャンプである旧二葉中学校周辺の交通環境を考慮し、必要な対策を講じる。
- (2) 路線バス等の既存の交通手段を最大限活用し、二次交通の情報提供を行う。
- (3) 交通手段だけではなく、宿泊施設等の情報提供などを行い、来場者にホスピタリティ溢れる情報提供を行う。
- (4) 各会場及び会場付近の利用可能駐車場情報をリーフレットやホームページ等で情報提供を行い、混乱のないよう配慮する。

VI 広報

1 基本方針

- (1) 水と土の芸術祭 2015 の良好なイメージづくりを計画的に展開する。
- (2) 全国及び新潟県内における雑誌等での広告デザイン・掲載及びチラシ・ポスターのデザイン・制作・設置を軸に展開する。
- (3) ガイドブック等の制作、WebサイトやSNSによる情報発信によって、より広く深い情報浸透を展開する。
- (4) 全国及び新潟県内において、様々なパブリシティを展開する。特に、全国向けのパブリシティにおいては、一般層に「水と土の芸術祭 2015」が浸透し、広く話題が広がっていくような仕掛けを展開する。
- (5) 2014年10月から早期広報を開始し、徐々に情報浸透を図りつつ、2015年2月以降に本格的な情報発信へ移行していく。
- (6) 広報イメージを屋外掲示物類とも共通のものとし、イベント期間中、市全体としての水と土の芸術祭 2015 の統一したイメージづくりを展開する。

2 実施体制

広報業務全体を株式会社新潟博報堂に業務委託し、広報ディレクターのもと戦略的・効果的な広報推進を図る。

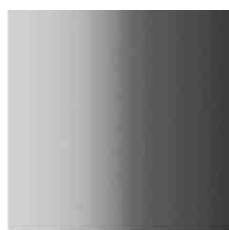
3 広報活動

水と土、場所とアーティスト、旅行者と環境、旅行者と市民などそれぞれの「出会い」をテーマにシンボル化（ロゴマーク）し、多面的に展開する。また、テレビや新聞などの既存メディアを通じたPRだけでなく、ソーシャルメディアも効果的に活用し、クチコミを誘う広まりやすい仕掛けとしていく。

(1) 水と土の芸術祭 2015 ロゴマーク

「水と土」の「出会い」をシンプルに表現している。

水と土の「交わり」と「共生」への想いを、2つの色面とそれをつなぐ「グラデーション」に込めている。また、正方形の形は「田」の字がシルエットとなってデザインされている。



水と土の
芸術祭

Water and Land
Niigata Art Festival 2015

ロゴデザイン/細川剛

アートディレクターとして、昨年のカンヌ国際広告祭でデザイン部門ゴールドを受賞した他、佐藤可士和とのヤンマー再生や、ワコール・日産・キリンなど一流企業を多数手がける博報堂を代表するアートディレクター。

(2) 広告物の制作

- アート作品公募チラシ・早期広報用チラシ【2014年10月2日(木)発行】
- 正式チラシ【2015年5月19日(火)発行】
- パフォーマンスチラシ【2015年5月19日(火)発行】
- 子ども向けチラシ
- ポスター【2015年5月11日(月)発行】
- 有料広告紙面

(3) 書籍類の編集・デザイン

ア ガイドブックの制作(有料販売500円税込)

- 芸術祭内容(作品、作家紹介、イベント、出演者紹介、スケジュール等)
- 会場へのアクセス(地図、交通機関、接続、主要な時刻表及び所要時間等)
- 会場案内(会場レイアウトマップ、食の紹介、潟の解説等)
- スタンプラリー(小中学生には別途台紙のみ無料配布)

イ 図録の制作(有料販売2,000円税込)

- 会期中から販売
- 作品写真及び潟風景写真等を中心にした図録

(4) パブリシティ活動

- メディアや美術関係者を集めた記者発表会やPRイベントへの出展を行う。
- 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミや、美術・旅行雑誌、タウン誌、フリーペーパー、Webニュースなどのメディアに、情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。
- マスコミや美術関係者を招へいして、開幕に合わせてプレスツアーを実施する。

(5) Web制作

- 第1早期暫定Web制作・運営管理【2014年10月2日(木)公開】
- 第2早期暫定Web制作・運営管理【2015年2月16日(月)公開】
- 本格Web制作・運営管理【2015年4月30日(木)公開】
- SNS活用(Facebook, Twitter)【2015年2月16日(月)開設】

(6) 全国広告掲載

- アートとの親和性が高く、旅や休日ライフの提案につながる雑誌に掲載する。
- 有料媒体とフリーマガジンを組み合わせることでリーチ(接触)を広げる。

(7) 県内広告掲載

- タウン誌3誌以上
- メディア(ラジオ)と連携したフリーペーパー及び、宅配型フリーペーパーを活用する。

(8) 県内テレビCM

- テレビのデータ放送を活用し、24時間オンデマンドで最新情報を発信する。また、データ放送と連動したCMを放送し、事業告知を実施する。
- 純広告スポットCMを放映

(9) 屋外掲示物企画・デザイン監修

- 屋外シンボル掲示物企画・調整・デザイン
- バナー等企画・調整・デザイン
- 誘導案内看板デザイン
- 作品解説看板等デザイン
- 芸術祭のぼりデザイン ほか

(10) その他

- その他のチラシや芸術祭グッズパッケージのデザイン監修等

4 記録について

公式記録のため「公式カメラマン」と契約し芸術祭を記録する。

5 広報等スケジュール

日 程	内 容
2014年 9月	ロゴマーク作成
2014年 12月	県内向けプレス発表会
2015年 4月	チラシ・ポスター・マップ発送・Webサイト本格運用
2015年 5月	首都圏向けプレス発表会 全国広告、新聞広告掲載・地方TV・ラジオ・CM (5月以降随時)
2015年 7月	ガイドブック販売
2015年 9月	図録販売

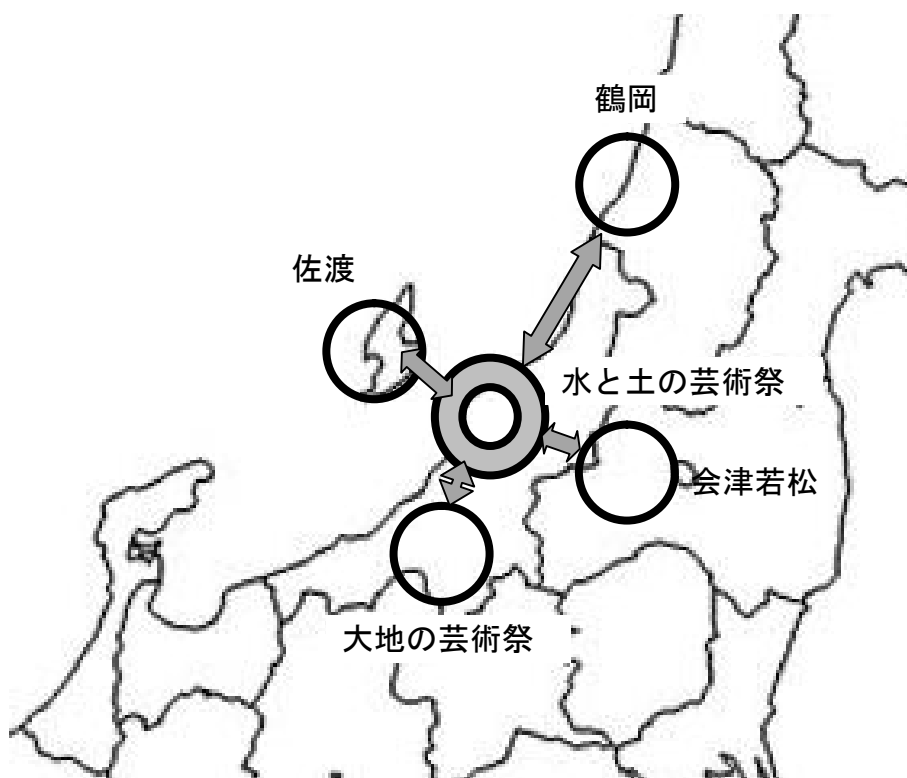
※ その他、必要に応じて随時、広報展開を行う。

VII 広域連携の取り組み

佐渡や鶴岡、会津若松など、既に広域観光として提携のある市町村と相互に協力し、誘客を図る。さらに、新潟県内の観光資源を最大限活用し、それらと連携することで、さらなる誘客と広域連携を促進させる。

特に、2015年に開催される第6回大地の芸術祭は、同時期に県内で開催される芸術祭であることから連携を図り、相互に人が行き来する仕組みづくりに取り組む。

また、姉妹都市・友好都市や東アジアの都市等との連携に取り組む。



VIII 料金設定

アート作品については観覧料金を徴収しないこととする。
ただし、パフォーマンスなど一部有料イベントを設定する。

IX 実施・運営体制

1 基本方針

市民主体・地域主導の芸術祭とするため市民の皆様をはじめ、議会、自治協議会等からご意見をいただき可能な限り反映しながら事業を実施する。

2 組織

様々な機関・団体から参画いただき実行委員会を組織する。

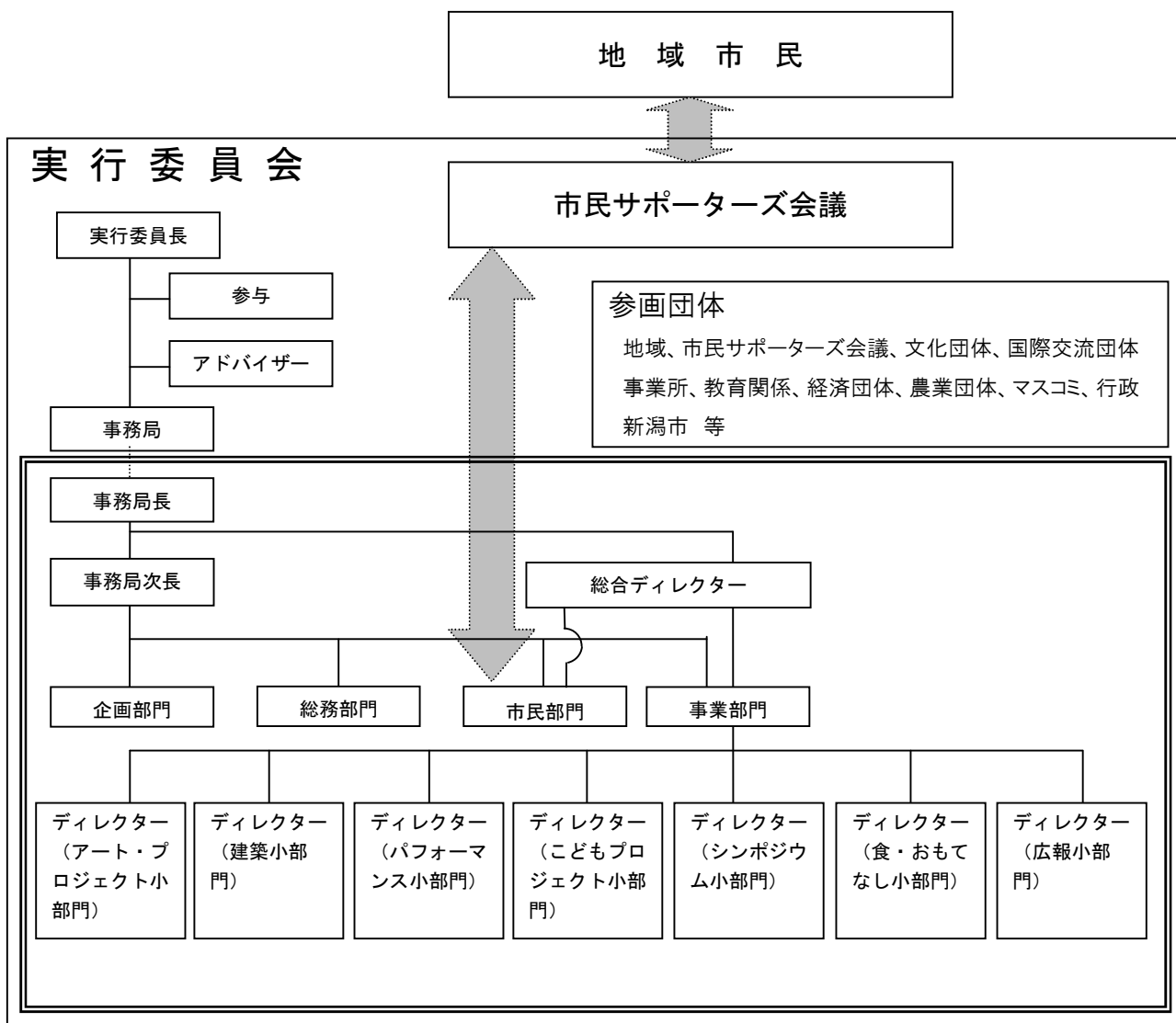
実行委員会には、参与、アドバイザー、総合ディレクター、ディレクターを置く。

事務局は、新潟市水と土の文化推進課が担う。同事務局内に企画・総務・市民・事業部門を設け、特に芸術祭の中核を担う事業部門については、総合ディレクターを配置し、この総合ディレクターの監督のもと、事業ごとにディレクターを置くことにより、個々の事業の一体化とブラッシュアップを図る。

区役所との連携を密にし、各種情報提供や協力依頼を行う。

3 市民サポーターズ会議との連携

市民サポーターズ会議の企画・運営等への参画が重要であることから、事業を進めるに当たり、実行委員会の市民部門が窓口となり、強力に連携する。



水と土の芸術祭 2015 実行委員会 会則

(名称)

第1条 本会は、水と土の芸術祭 2015 実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、水と土の芸術祭 2015（以下「芸術祭」という。）を円滑に開催するために必要な事項を審議し、実行し総括することを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 芸術祭の開催及びこれに関する事業
- (2) その他、第2条に掲げる目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 実行委員会は、別表の団体等をもって構成する。

(役員)

第5条 実行委員会には、次の各号に掲げる役員を置く。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 若干名
- (3) 監事 2名

(役員を選任)

第6条 役員は、実行委員会の中から互選により選任する。

2 監事は、実行委員会の外部から選任できるものとする。

(役員職務)

第7条 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

2 副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長が不在のときは、その職務を代行する。

3 監事は、会計及び業務を監査する。

(会議)

第8条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、実行委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 芸術祭の計画及び運営に関すること。
- (3) その他重要な事項に関すること。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 実行委員長は、必要があると認められるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

(参与)

第9条 実行委員会に参与を置くことができる。

2 参与は、芸術祭の基本的な方向性を導引する。

3 参与は、実行委員長が委嘱する。

(総合ディレクター)

第10条 実行委員会に総合ディレクターを置くことができる。

2 総合ディレクターは、次条に掲げるディレクターを統括する。

3 総合ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(ディレクター)

第11条 実行委員会にディレクターを置くことができる。

- 2 ディレクターは、総合ディレクターの指示に従い、専門的知識を活かし、担当する部門の企画・運営を指導・推進する。
- 3 ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(アドバイザー)

第12条 実行委員会にはアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、実行委員長の求めに応じ、実行委員会に対して助言を行う。
- 3 アドバイザーは、実行委員長が委嘱する。

(部会)

第13条 実行委員会に部会を置くことができる。

- 2 部会は、それぞれの専門分野等において、事業を推進するものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、部会に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(作品選定会議)

第14条 実行委員会に作品選定会議を置くことができる。

- 2 作品選定会議の運営等に関する事項については、実行委員長が別に定める。

(専決処分)

第15条 実行委員長は、第8条第2項に掲げる事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができるものとする。

- 2 実行委員長は、第1項の規定により専決処分したときには、次の会議でこれを報告しなければならない。

(解散)

第16条 実行委員会は、その決議により解散することができる。

- 2 実行委員会が解散するときに有する残余財産は、新潟市に帰属するものとする。

(事務局)

第17条 実行委員会の事務を処理するため、新潟市観光・国際交流部水と土の文化推進課内に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置く。
- 3 前2項に定めるもののほか、事務局に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(会計)

第18条 実行委員会の経費は、負担金、寄附・協賛金、その他の収入をもって、これに充てる。

(会計年度)

第19条 実行委員会の会計年度は、初年度は実行委員会設立の日から平成27年3月31日までとし、次年度以降、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第20条 この会則に定めるもののほか、必要な事項については実行委員長がこれを定める。

附 則

この会則は、平成26年4月28日から施行する。

水と土の芸術祭2015実行委員会 構成団体等一覧

区分	団体等名称	区分	団体等名称
市民・地域	市民サポーターズ会議	商工・経済団体	(一社)新津青年会議所
	北区		(一社)白根青年会議所
	東区		(一社)にいがた北青年会議所
	中央区	交通関係	東日本旅客鉄道(株)新潟支社
	江南区		新潟交通(株)
	秋葉区	学校・教育関係	新潟大学
	南区		新潟市小学校長会
	西区		新潟市中学校長会
西蒲区	はばたけ21の会		
農業団体	新潟県土地改良事業団体連合会	各種団体	(一社)日本旅行業協会新潟地区会
	亀田郷土地改良区		日本ホテル協会信越支部会新潟市協議会
	西蒲原土地改良区		新潟市旅館協同組合
	豊栄土地改良区		新潟市漆器同業組合
	白根郷土地改良区		(公社)新潟県観光協会
	新津郷土地改良区		(公財)新潟観光コンベンション協会
	木崎濁川土地改良区		(公財)新潟市芸術文化振興財団
	葛塚土地改良区		(公財)新潟市国際交流協会
	新潟県農業協同組合中央会		食の陣実行委員会
	全国農業協同組合連合会新潟県本部		NPO法人まちづくり学校
	新潟みらい農業協同組合		NPO法人新潟水辺の会
	新潟市農業協同組合		NPO法人新潟NPO協会
	豊栄農業協同組合	マスコミ	新潟日报社
	新潟さつき農業協同組合	行政機関	農林水産省北陸農政局
越後中央農業協同組合	国土交通省北陸信越運輸局		
	国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所		
水産団体	新潟漁業協同組合		国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所
商工・経済団体	新潟商工会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所
	亀田商工会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
	新津商工会議所		新潟県新潟地域振興局
	新潟県商工会連合会		新潟市
	新潟経済同友会		新潟市教育委員会
	新潟市商店街連盟		
	(一社)新潟青年会議所		

計 63団体等

X スケジュール

	2014年				2015年				2016年		
	1月 ~ 3月	4月 ~ 6月	7月 ~ 9月	10月 ~ 12月	1月 ~ 3月	4月 ~ 6月	7月 ~ 9月	10月 ~ 12月	1月~		
全 体	基本計画案作成	基本計画作成	実施計画作成								
	開催準備										
	市民意見聴取										
		実行委員会設立総会		部会設置	実行委員会総会		実行委員会総会	芸術祭 開催		実績報告	実行委員会総会
市民プロジェクト					公募・審査				実施		
アートプロジェクト	作品展示候補地調査										
	*公募作家		作品公募	作品審査	作品制作	作品制作	作品制作	作品展示	作品展示		
	*招へい作家	作家交渉・作品制作準備					作品制作	作品展示			
シンポジウム					内容・出演者等の調整・プレゼンポジウムの開催			開催			
広 報					ホームページによる情報発信						
					事業周知宣伝(プレスリリース等)						
					印刷物・広報紙・広報テレビ・ラジオによるPR						
					広告宣伝						
					作品制作準備・開催記録、記録編集						

XI 予算

【 収 入 】

(単位：千円)

区 分	平成26年度	平成27年度	計
新潟市負担金	20,000	236,000	256,000
寄附・協賛金	0	4,000	4,000
助成金	0	10,000	10,000
各種販売収入	0	0	0
計	20,000	250,000	270,000

【 支 出 】

(単位：千円)

区 分	平成26年度	平成27年度	計
市民プロジェクト	0	45,000	45,000
こどもプロジェクト	0	10,000	10,000
アートプロジェクト	0	85,000	85,000
シンポジウム	900	2,000	2,900
主催イベント	0	4,000	4,000
広報費	3,500	60,000	63,500
運営活動費	15,600	44,000	59,600
計	20,000	250,000	270,000